

第7次江別市総合計画策定に係る
職員アンケート調査結果

令和4（2022）年9月
企画政策部政策推進課

目次

1	結果概要	1
	(1) 目的	1
	(2) 対象者	1
	(3) 実施方法	1
	(4) 結果	1
2	力を入れるべきまちづくり分野	3
	(1) 医療、福祉、子育て、教育	5
	(2) 産業	8
	(3) 行財政、デジタル化、情報発信	10
	(4) 住環境	13
	(5) 環境	15
	(6) 多様性、コミュニティ、市民活動	16
	(7) 土地利用、市街地	17
	(8) そのほか	19
3	江別市をより良くするための政策提言	25
	(1) 産業	27
	(2) 行財政、デジタル化、情報発信	30
	(3) 医療、福祉、子育て、教育	35
	(4) 住環境	39
	(5) 土地利用、市街地	42
	(6) 環境、多様性、コミュニティ	43
	(7) そのほか	44

1 結果概要

(1) 目的

第7次江別市総合計画の策定に当たり、江別市役所の職員一人ひとりが考える市の進むべき方向性を確認し、その結果を総合計画策定のための参考資料として活用する。

また、各部において、今後の政策形成及び担当業務の参考としてもらうこととする。

(2) 対象者

全職員（ただし、新型コロナウイルス感染症への対応を考慮し、市立病院及び夜間急病センターに所属する医療職に対する調査は控えた。）

(3) 実施方法

① 実施期間

令和4年2月10日（木）～2月24日（木）

② 実施方法

[1] desknet'sNEOによるアンケート

[2] 紙媒体の送付（desknet'sNEOを使用できない職員向け）

(4) 結果

① 回答件数

430件／827件（回答率：52.0%）

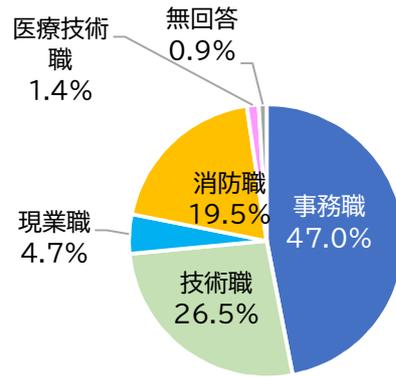
〔 desknet'sNEO アンケート 377件／736件
紙媒体 53件／91件 〕

【1 結果概要】

② 属性別の回答割合

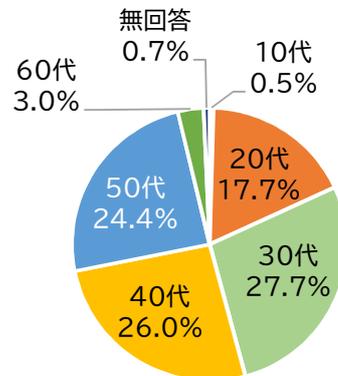
[1] 所属

・事務職	202人 (47.0%)
・技術職	114人 (26.5%)
・現業職	20人 (4.7%)
・消防職	84人 (19.5%)
・医療技術職	6人 (1.4%)
・無回答	4人 (0.9%)



[2] 年代

・10代	2人 (0.5%)
・20代	76人 (17.7%)
・30代	119人 (27.7%)
・40代	112人 (26.0%)
・50代	105人 (24.4%)
・60代	13人 (3.0%)
・無回答	3人 (0.7%)

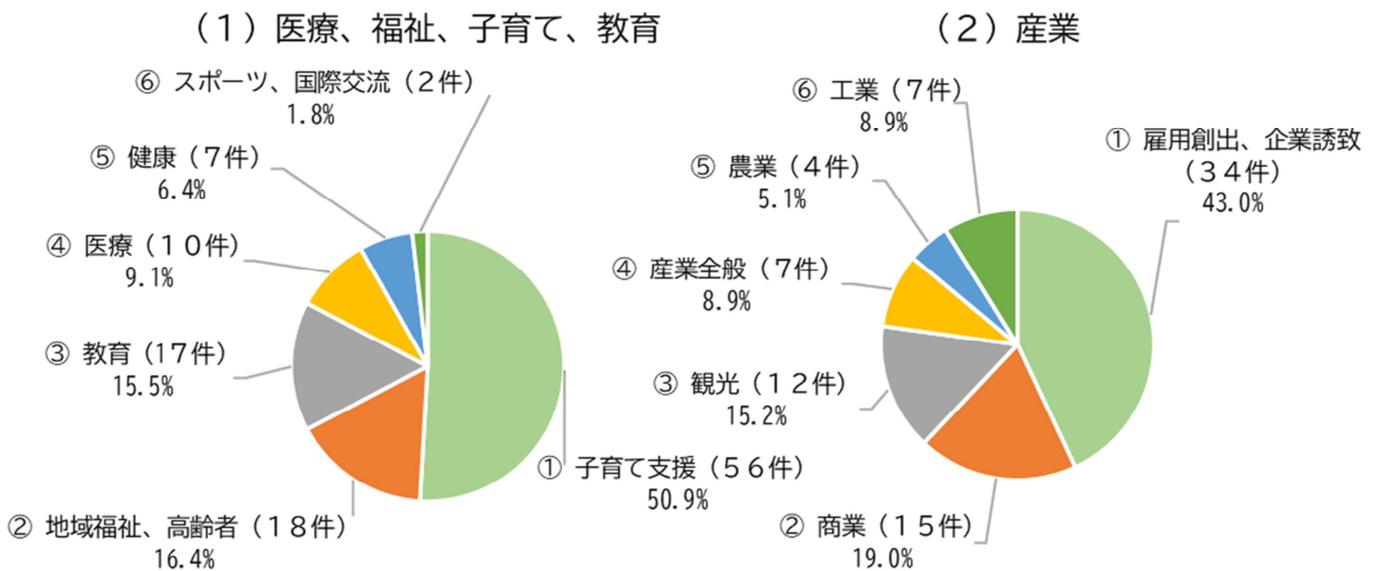
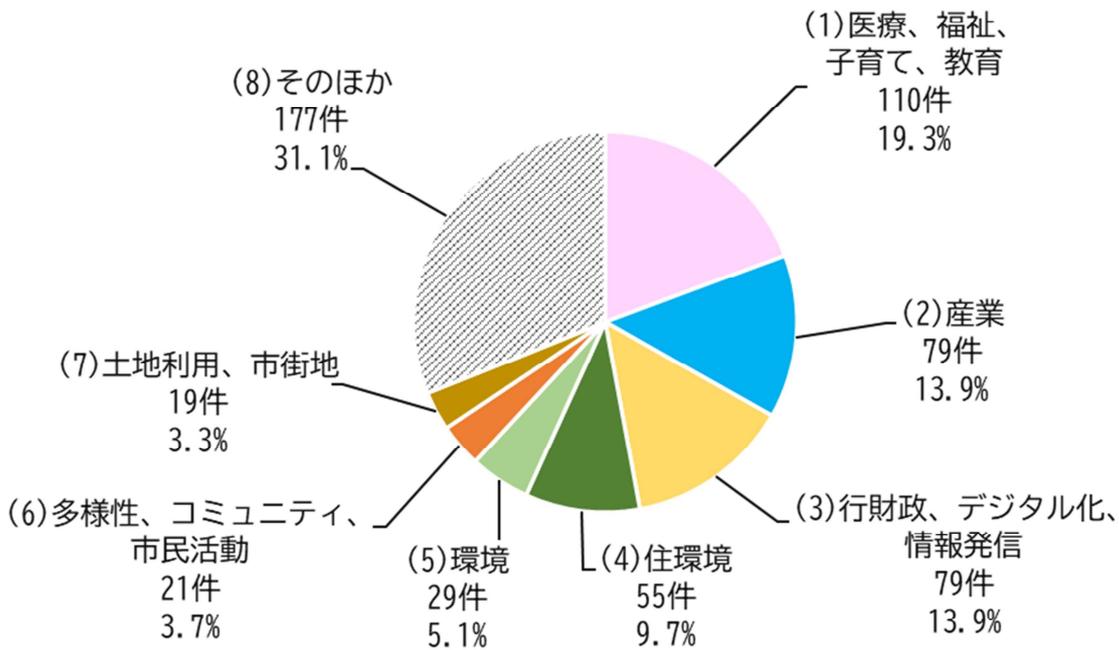


※自由記載は原文のまま掲載している。

2 力を入れるべきまちづくり分野

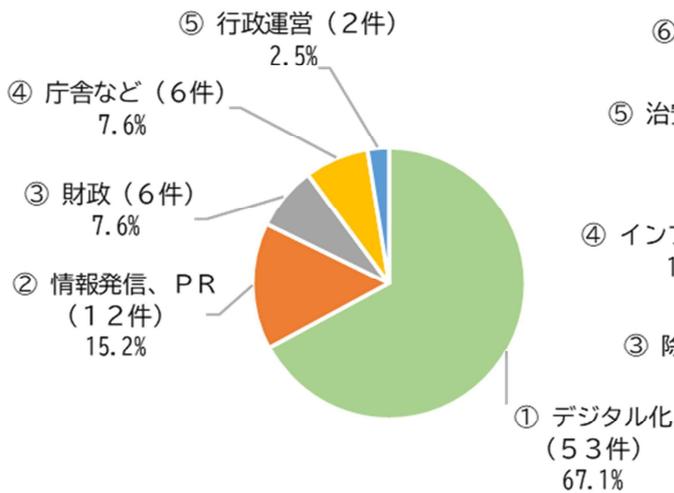
10年後のまちづくりの方針として、どのような分野に力を入れるべきか、あなたの考えを記載してください。

約3割を占める「(8) そのほか」を除くと、「(1) 医療、福祉、子育て、教育」に関する内容が多く、約2割(19.3%)を占めています。次に「(2) 産業」と「(3) 行財政、デジタル化、情報発信」に関する内容が同率(13.9%)で続きます。

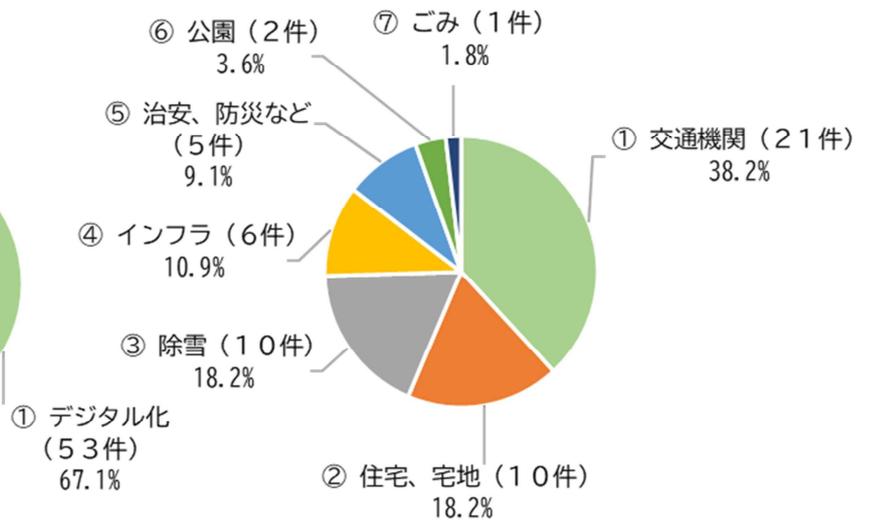


【2 力を入れるべきまちづくり分野】

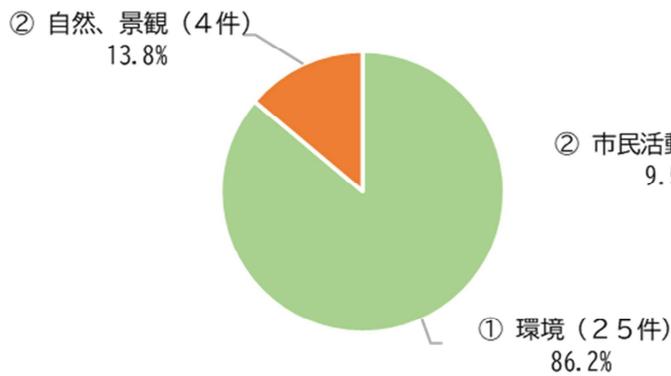
(3) 行財政、デジタル化、情報発信



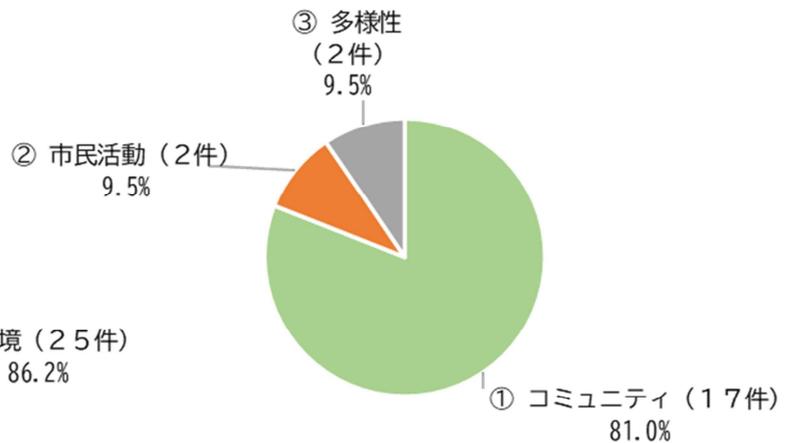
(4) 住環境



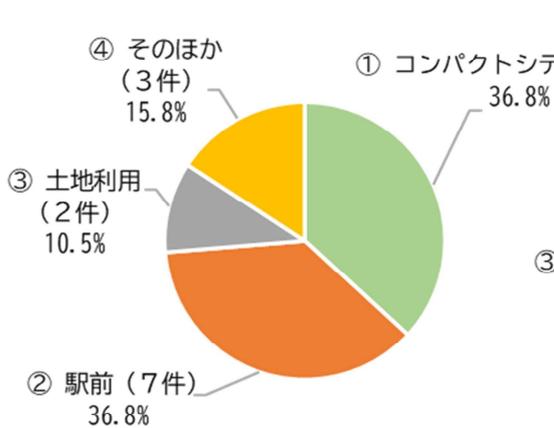
(5) 環境



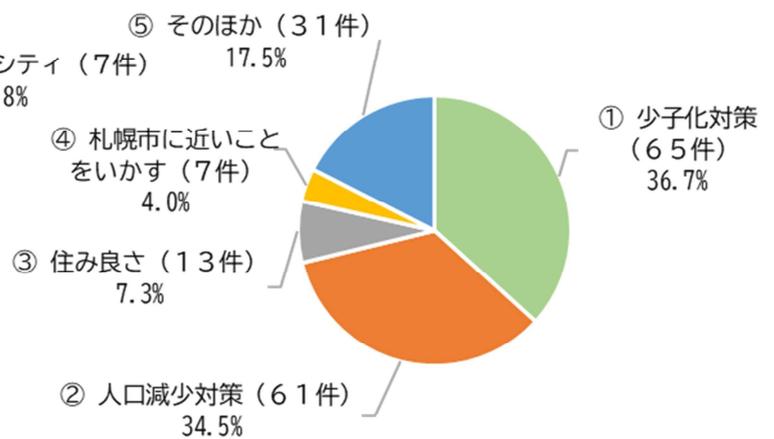
(6) 多様性、コミュニティ、市民活動



(7) 土地利用、市街地



(8) そのほか



※同じ回答内容については、まとめて記載し、回答者数を（ ）に記載しています。

（1）医療、福祉、子育て、教育【110件】

医療、福祉、子育て、教育に関する内容が挙げられた件数は110件で、子育て支援や教育、高齢者の生活支援に関する意見が多く挙げられています。

① 子育て支援（56件）

- 子育て環境／子育てしやすいまちづくり／子育て世代が住みやすいまちづくり（10）
- 子育て支援／子育て世帯への支援（15）
- 子育てと仕事を両立しやすい街づくり
- 江別は、丁度よい利便性と自然が多く穏やかという両面を持っており、特に、子育て世代や高齢者にとって、とても住みやすいという市の特徴を持っていると思います。このような世代のサポートをより充実すると、もっと人口が増えるのではないかと思います。
- 札幌市への通勤のしやすさが着目され、人口数も回復しているため、まずは住んでもらって良さを実感してもらうことに更に力を入れた方が江別の活性化につながると思う。ファミリー層が増加しているようなので、子供の受け皿となる保育園の増設にもっと注力すべき。
- 子どもが増えてほしいなと思います。それをかなえるための施策について、子育てには費用、労力、コミュニケーションなど、いろいろなものが必要ですが、必要としている人たちからは声を上げにくい状況にあると思われれます。いわゆるプッシュ型の支援をしていかないと本当の意味での助けにはならないのではないかなど。実際に子育て経験のある人の声を丁寧に拾い上げたら、きっとヒントが見えてくるのだと思います。
- 子育てのしやすいまちづくりを打ち出すなら、保育士の働きやすいまちづくりからはじめるべきです。
- 子育て環境の充実、地域で子育て出来るようなコミュニティの形成及び活性化。
- 子育て環境の整備（待機児童解消、一日遊べる公園、学習内容の強化：ITと英語、医療費助成）
- 子育て支援（絵本や経済的支援が行われているのは知っているが、もっと手厚くしてもよいかと思います。具体的な施策を提示できず申し訳ございません）
- 子育て支援や教育は引き続き力を入れて取り組み、豊かで身近に触れ合える自然環境を育む。
- 子育て支援等の若者への支援及び支援内容のPR
- 子育て世代の交流が活性化し、子どもを育てやすい街づくりなどに力を入れていくべき。
- 子育て世代の住みやすさの追求（子育て世代の転入促進と住み続けたいなるまちづくり）
- 子育て世代の転入増等により、地域の若返りが見込めるため、コミュニティの活性化を強化し、より一層、安心、安全な子育てが出来るまちづくりのアピールを行う。

【2 力を入れるべきまちづくり分野】

- 子育てサポート、学力向上、中高一貫教育の導入など
- 子どもに優しいまちづくり（子育て、教育など）
- 少子化は人口減の大きな要因と考えることができるため、少子化対策としてもっと踏み込んだ子供の医療費免除などが可能であれば重点的に行えればと考える。
- 人口減少対策は北海道内でパイを奪い合う競争とも見える。急激な減少は避けるべきだが、いずれは減少することを受け入れなければならない。急激な減少を避けるための子育て環境充実には継続する必要がある。
- 他の市町村とは異なり、年少人口が増加していることから、その子育て世帯向けにより住みやすくできるような施策を中心に行うべき。子どもが成長し、再び江別市に戻ってきたいと思ってもらえるようなイメージ。
- 子育て世代が移住したいと思えるような政策の実行・発信。
- 保育園の充実／保育施設を増やす（3）
- 助成金、待機児童問題解消
- 学童保育の充実（入学後、預けられずに困る）
- 保育所、一時預かり、放課後児童クラブなどの環境整備
- 幼稚園、保育園などを今以上に増やし、費用面でも更なる補助を行うことで、子育て世代の移住や、北翔大学の保育系の学科の学生を雇うことができ、住民を江別市に住まわすことができるのではないかと。もともと札幌市の近郊ということで立地的な意味でのニーズはあると思うので）
- 子どもの保育園の友達をみると、自分が子どもの頃より、3、4人兄弟という家もかなり多いように感じる。共働きの家庭が増え、金銭的余裕が多少なりともある家が多いからというのも一つの要因かなと思う。子どもは多くてもいいと思っている人は意外にいると思うので、そういう人たちに産んでもらえるような産みたいとおもってもらえるような環境作りと欲しくてもなかなか授からない人への支援ができるようになればよいと思う。
- 札幌市より子育てに係る援助を行う。保育園費用を全て無償化する等。
- もっと安全な公園がほしい。遊具というより柵があるところがほしい。
- 子どもの医療助成を充実させる
- 入院、治療費免除の対象年齢拡充

② 地域福祉、高齢者（18件）

- 介護・福祉の充実
- 障害のある人や老人の住みやすい街
- 高齢者対策／高齢化対応（5）
- 超高齢社会対策
- 高齢者待遇
- シニアが住みやすいまちづくり／お年寄りにやさしいまちづくり（2）
- 高齢者が最期まで生き生きと過ごせる場所づくり
- 高齢者に対する医療費補助等の対策
- 高齢化に向けたコミュニティの再構築。
- 高齢者の医療費、介護費用を抑えるための施策
- 高齢者の住みやすい街づくり（コミュニティバスの充実、軽度の就労

など?)

- 運転免許返納者に対する補助（足がなくなることに対しての）
- 高齢化社会のための施設増設。

③ 教育（17件）

- 教育／教育機関の充実／他市を凌ぐ教育（6）
- 教育支援、学生支援
- 学校教育（英語、デジタル化）
- 学校等の誘致
- 江別市が魅力あるまちになれば、居住する人も増えると思う。まずは教育に力を入れているまちとして認識され、子育て世帯を確保できれば、労働力人口が上がり、市の機能が維持される。
- 最も力を入れて行くべきだと思うのは、教育の分野です。長所にも記載したとおり、平均学力が高いことや、スポーツ関係の実績については、江別市の長所としてPRしていくべきだと考えます。教育環境が充実することにより、子育て世代を中心として転入が促進され、若い世代が増えると思います。経済面も重要かと思いますが、生活するうえで江別市内で足りないことは、札幌に行けば解決できると思いますし、まずは教育を起爆剤に若い世代を呼び込めば、自然と市内にも多種の企業が入ってくるのではないかと思います。
- 小中学校の改築を今と同様進めていく
- 新型コロナウイルスがいつ収束するかもわからないし、今後また新たな感染症が出てくる可能性もあるため学校教育のリモート化を推進しなければ勉強が追い付かない児童がたくさん出てくる。
- 大学連携
- 大学生の定住化。
- 学校でのICT教育環境の充実による、学びの機会をしっかりと担保できる環境づくり。
- 教育に力を入れるべき。幼児教育の無償化・小中学校教育での独自の取り組みを導入するなどしてアピールしていくべき。

④ 医療（10件）

- 医療体制／医療体制の充実／地域医療の充実（4）
- 病院
- 市立病院の経営再建
- 市立病院（民営化または廃止）
- 近隣の他市町村と比べると、18歳以下の医療費の負担が大きいと考えます。
- 江別市立病院の民営化あるいは廃止。札幌の近郊であるため大病院が割と近くにあり江別市立病院のような市営の病院は必要ないと思われる。また、クリニックなどの個人病院は江別市内にも多々あるため、入院を伴わない症例に関しては十分対応できるのではないか。合わせて、札幌の病院にかかる際の補助金や交通費の補助などを行うことで、十分な設備のある病院にかからなければならない市民を補助することができるのではないか。

【2 力を入れるべきまちづくり分野】

- 大規模病院施設の充実（大きな病気になると札幌の病院を受診することが多い）

⑤ 健康（7件）

- ヘルスリテラシーの向上
- 健康づくり
- 子どもの健康
- 2025年・2035年を迎えるにあたり、医療態勢の確保（確立）
- ある程度市内で完結できる医療体制。
- 医療（健康寿命延伸に向けたメディカルデバイスの活用）
- 医療の充実を今よりも進めていけば、子育て世帯の転入や出生数も増えるのではないかと考える。自ずと人口減少対策にもつながるのでは。

⑥ スポーツ、国際交流（2件）

- 市民スポーツ環境施設
- 国際交流の活性化

（2）産業【79件】

産業に関する内容が挙げられた件数は79件で、商業施設、観光振興、雇用創出に関する意見が多く挙げられています。

① 雇用創出、企業誘致（34件）

- 雇用の促進／雇用創出（4）
- 企業誘致／企業立地／雇用の場となる企業誘致（15）
- （今よりも）積極的な企業誘致による雇用増
- 企業誘致。働く場所があれば、人口減少対策になり、少子化対策にもなる。王子エフテックスが縮小していく中、新しい企業誘致が必要と思います。
- 増税及び雇用促進等による人口増を見込み、企業誘致を可能とするインフラ整備
- 大規模企業誘致（過去例：プロ野球の球場）。活性化に繋がる
- 土地を有効活用して企業誘致。
- 半導体等の企業誘致
- 税収対策（大企業の誘致など）
- 税収を稼ぐため、昼間人口を底上げするため、企業誘致にも力を入れるべき。
- デジタル化による新たな企業立地
- 雇用の場の創出・拡大。10年後というより、持続性を保つには、雇用の場が確保されることが重要と考える。人間（自然人）には寿命があるが、企業等（法人）は倒産しない限り持続するもの。市内に確固とした雇用の場があれば、世代交代で活力が維持できるまちになる。転入が人口維持に寄与しているのは事実だが、大半が札幌で働くようでは経済効

果は限定的となる。転入・子育て支援一辺倒ではなく、雇用の場の創出にもう少し力を入れてもよいと思う。

- 就業支援
- 市大学の市内就職率の増加
- 市内に4大学があるにも関わらず、それらの学生の市内企業への就職率が著しく低いことから、市内企業の活性化が重要と考える。
- 女性が働ける環境の整備。
- 少子化対策が大切と考えるが、働きたくても保育園に入れない等の働く母親の困り感も多く聞く。社会進出したい女性が働きながら子育てができる環境を整えるには、現在も頑張っていると思うが保育施設の充実が望まれる。保育園以外の託児サービスやファミリーサポートなどの家庭と保育園のつなぎ支援などについても、充実できるとよいか。「女性が働きやすいまち」が「子育て応援のまち」にもつながるのではと感じている。

② 商業（15件）

- 商業施設の充実／商業施設の誘致（3）
- 大規模商業施設の誘致／大型商業施設の誘致及び維持（3）
- 商業施設が増えるのにぎわうと思う。蔦屋のように。ユニクロ、GU、無印良品など。
- 商業施設を増やす（ユニクロ、無印）
- ショッピングセンターなどがあれば市外からも市内に来てもらえると思うし、江別市に住みたいと思う人も増えると思う。
- 企業（IKEA等）の誘致（北海道初出店等の企業を誘致できるとアピールになる。その企業によって雇用も増える）
- 特に商業施設の充実化を図ると良いと思われる。非常に難しいが札幌にはなくて江別にあるもの、現在でいうと蔦谷書店がその例である。
- 札幌や近隣市町村からも江別に来たくくなるような大型商業施設などがあればいいと思います。
- 人が集まるカフェや商業施設
- アミューズメント施設があれば子供から大人まで楽しめると思います。
- 例に挙がっているようなありきたりでどこでも掲げているような事を言っているようでは改善は望めないと思いますが・・・「大規模娯楽施設の建設」ぐらいのことは言えないのでしょうか。

③ 観光（12件）

- 観光／観光分野／観光資源の強化（4）
- 観光業に注力する。札幌市民や江別の大学生も江別でお金を使ってくれたら地域は活性化する。
- 観光資源の活用による知名度向上
- 札幌圏からの日帰り観光の充実。
- 観光で訪れたいようなまちづくり
- 観光業（北広島にボールパークが出来るので近隣市として）
- 観光名称を増やしてもっと江別市を知ってもらおう。

【2 力を入れるべきまちづくり分野】

- 蔦谷周辺の観光
- 集客力のある観光地の創生。

④ 産業全般（7件）

- 産業の活性化／経済の活性化（4）
- 街にお金が集まる産業
- 市内で経済を循環させるためのまちづくりが必要と考えます。
- 自然を活かした産業や観光業に力を入れたら良いと思う。

⑤ 農業（4件）

- 農業
- 農業改革
- 1次産業。特色である都市型農業を活かし、野菜直売所やオーガニックレストラン、6次産業の加工品などで観光客増
- 農業従事者の減少に伴う対策

⑥ 工業（7件）

- 物づくりが出来るようになれば良い。
- 建設業のプロテクト強化。このままでは他市の業者へ依頼しなければならなくなる。担い手の高齢化が進み、人材不足に陥る。必要量を実施できないおそれが出てきている。後継者育成も含め、手厚く保護すべき。
- 食産業の充実。
- 江別市といえばというブランド商品。特に食に関して
- 地場産品訴求
- 物流基地
- 「江別と言えばこれ」というような産業や施設、商品を生み出せるよう産官学で連携を図る。

（3）行財政、デジタル化、情報発信【79件】

行財政、デジタル化、情報発信に関する内容が挙げられた件数は79件で、デジタル化に関する意見が多く挙げられています。

① デジタル化（53件）

- DXの推進／デジタル化／デジタル化の推進（26）
- 各種行政手続きのデジタル化／市窓口対応のデジタル化（4）
- デジタル化をはじめとした利便性に特化した街づくり
- デジタル化を推進することにより「便利で住みよいまちづくり」を目指す
- ICTの活用が、地域コミュニティの維持など様々な分野の諸課題を解決に導くかもしれない…というのは一般的に想像の範疇ですが、メタバース（仮想現実空間）が一般化していくと、オンライン通信どころか、これまで窓口で行っていた対応を、これからはメタバース内の3Dアバ

ター同士で対面して行うようになるかもしれない。今の若い世代が社会の中心になったときには、今では想像もつかない世界になっているはず。その変化のスピードは、これまでの歴史で経験したことのないものだと思います。その変化に耐えうる備えはしておくべきかと思えます。

- m e t a（仮想空間で世界に向けて）で江別の物産展を開く。ハルユタカなど道産小麦の使ったものを世界に売り出す。
- デジタル化を進めつつ、デジタルが苦手な方へのフォロー
- デジタル化（すべての課題解決に必要なだと思うため）
- 行政サービスを自宅で手元のデジタル端末で出来るようにする。昨今、確定申告も書類の提出不要でできるため、引越しや保険の切り替え、税金の納付等も出来れば良いと思えます。
- 市役所の各種手続きのデジタル化による簡素化。（役所に来なくても出来る仕組みづくり）
- 市役所窓口業務（証明書発行等）はデジタル化をもっと進めてもいい。苦情処理などは電話交換窓口とかではなく、音声ガイダンスなどを流し、外部委託でもいい。人件費を減らすのではなく、本当に必要なところに職員を配置しもっと江別の課題に向き合う部署ができていいと思えます。
- 公共料金の支払い方法。時代に沿った方法（キャッシュレス）に変更
- 江別市は現状でも住みやすいまちであると感じているが、もう一歩進めようと考えた場合、デジタルの活用が必要になると思う。既存の仕組みや手続きについて、デジタルを活用してステップの省力化を図っていくことにより、市民の利便性はもちろん、職員の省力化にもつながる。
- デジタル化については、予算に直結します。設備導入したらランニングコストが毎年支出され、これを減らすことはできなくなります。世間が推進をはやし立てている感もあり、必要以上にイメージだけが先行しているように見受けられますが、投資コストが安定するまで、既存設備を最大限維持するような歩調でよいのではと考えます。ただし、本庁舎移転という大きなイベントがありますので、この機に一括して導入するほうがコストが下がるという意見もあるかと思えます。
- 新型コロナウイルス等の感染症の流行は引き続き起こり得ると思えますし、新たな感染症も発生する可能性もあるかもしれません。そのような点から、デジタル化に力を入れるべきだと思います。
- デジタル化（業務の効率化・自動化）
- デジタル化（窓口手続きの電子化、北見市のマネをしたい。庁内の紙の決裁も、そろそろいい。）
- どこでもW i - F i環境を家庭に設置。役所の書類などはデジタルで申請できるようにすすめる。
- どの事業を行うにも、デジタル化が進んでいないことがネックとなることが多い。今後、市職員数を確保できないことが予見されるため、手遅れにならないうちに進めたい。
- デジタル化による業務の効率化、マイナンバーカードの普及促進
- デジタル化に力を入れる必要があると思う。将来的に人口減少による職員の確保も問題になってくると思うので、窓口業務の効率化や事務の自動化を進めることで、多岐にわたる政策対応に時間や人を割ける体制を整えていく必要があると思う。

【2 力を入れるべきまちづくり分野】

- デジタル化を推進して、公共交通機関が整備されていない地域においても、必要な公共に関する申請、手続き等が出来る様に整備する。デジタル化により、あらゆる広報媒体を活用して、宅地情報や商業施設の情報の広報活動を強化する。
- 何を置いても、行政のデジタル化が最優先の急務。特に、市民から「見たい情報に行き当たらない」と評判のホームページの刷新は必須。また、今後は文字ではなく動画での情報発信が求められるようになるので、動画制作を行う専門部署の新設（または情報大などとの業務提携）は非常に有効であり、話題性もあると思う。
- 業務効率化及び市民サービスの向上のための情報機器の入替え（デジタル化）。win7の現役稼働、ネット回線の無線使用はできない、会議における資料は紙の配付、電子会議が自席でできない等、現状は相当低レベルな環境である。今後のためにも早急な対応（情報分野への投資、人材確保及び育成）が必要である。
- 人口減少を見据えた役所等のデジタル（AI含む）化による就労者の削減と、それに伴う税収の支出の削減

② 情報発信、PR（12件）

- 広報活動／広報等の情報発信（2）
- シティプロモート（知名度の向上）
- 市のイメージ向上
- 全道でというレベルではなく、全国にもっと情報発信すべきだ。印象が大事なので、魅力ある市町村ベスト50に入るよう努力すべきだ。
- 全国的知名度を確保するための観光スポットや市の名物などの創出
- 「食」「おいしい」がそろっていること、もっとアピールしても良いと思う。
- データ放送等を用いて、地域にもっとPRすべき。
- ホームページを見やすくする。
- 札幌市と隣接する強みと自然環境の良さを組み合わせたプロモーション
- 江別市をアピールできる代表的な施設構築や行事の開催
- 全国から集まる大学生に江別の強みを刷り込み、コントロールして、広報媒体として活用することによって、全国の若い世代に江別の強みを広報する。

③ 財政（6件）

- 財政健全化（2）
- ふるさと納税／ふるさと納税による税収増（2）
- 企業誘致やふるさと納税の強化による財源の確保
- 多様化する行政ニーズに対応するための税収を増やす方法。

④ 庁舎など（6件）

- 新庁舎建設
- 市有建築物の更新
- 公共施設の集約（最低限で良し）
- 少子高齢化を見据えた施設の整備（施設の集約や拡大）

- 市役所庁舎建設に合わせデジタル化の推進、防災機能強化期待
- 公共の建物の老朽化（建て替えなど）

⑤ 行政運営（2件）

- 国内全体の人口減少が続く中、全体として持続可能な行政サービスをしていくことが重要。直近の除雪関連のように、人員不足や深夜帯の長時間労働の問題から、今後も一時的に市民の社会生活がストップすることが増えていくのではないかと。それは簡単には解決できない問題で、現在も直面しつつあることから、今後も不可避だと思ふ。その際に、ある程度ストップすることを市民全体として受忍しつつ、官民間問わずデジタル化（リモート）など、各種技術による代替手段を用いつつ最低限の社会生活を維持できるような体制を構築することが必要。なお、除雪や物流、介護等の一部のサービスは現地作業や移動を要するため、その点についての対策（担い手不足や組織体制など）の検討も要すると思ふ。
- 新たな方針より先に、時代の変化に対応していない事業やサービスを先行してやめることに力を入れるべき。

（4）住環境【55件】

生活環境に関する内容が挙げられた件数は55件で、除排雪や交通機関、住宅地に関する意見が多く挙げられています。

① 交通機関（21件）

- 交通利便性の向上／交通環境の充実（3）
- 道路整備
- 12万人規模の交通ネットワークの確立。高齢化をにらんだ地域住民の交通利便性の向上。北広BPや新千歳空港等へのアクセス充実（空知・道北等のゲートウェイ機能も）。物流基地
- JR野幌駅に特急列車を停車させる。
- Maasを基盤としたスーパーシティ構想
- 地下鉄を伸ばしてもらい、商業施設を増やしてほしい。
- 交通・通信網の整備（高規格道路供用などに伴う物流拠点機能強化）
- 交通の利便性が高い街（JR、バス、車、自転車、徒歩で移動しやすい街）
- 交通網の強化。札幌とのつながりをより厚くするべき。
- 公共交通（またはそれに代わるもの）
- 公共交通機関及び道路の整備
- 札幌圏との交通アクセスを強化し、通学、通勤に便利な住みよい街とし、より一層の定住を促進。
- 新千歳空港や北広島市（ボールパーク）への公共交通機関による直接アクセス手段を増加し、当市へ足を運ぶ者を増加させる。
- 地下鉄があるだけで、大幅に人口増が見込められると思われる。
- 地下鉄などの大雪で遅延のしない交通機関が出来ていれば嬉しい。
- 地下鉄の延伸

【2 力を入れるべきまちづくり分野】

- 中規模都市ならではの「公共交通」（特にコミュニティバスはカネがかかっても相当なインパクトがあるのではないか）
- 農村地帯（美原、角山、西野幌など）から市内方向への巡回バス、タクシー。
- 北広島の新球場へのアクセスの充実

② 住宅、宅地（10件）

- 宅地開発／宅地造成（3）
- 住環境対策
- 中規模都市ならではの「快適な居住環境の整備」
- 市内の分譲地の用途変更を考慮して、多くの分譲地を用意することにより、市内転居をしやすい環境を作ることで対策ができ、また、子育て世代が多く転入してくることが見込める。
- 住宅地の建替えの促進（人口減少対策）
- 用途地域を見直し、人口を確保するために高層マンション等の建築に力を入れるべき。江別市は土地があまりないため、一軒家ばかり増えても人口増にはつながらない。
- 高齢者の死亡に伴う空家問題への対策。
- 空家となって放置されている家屋を少なくして土地利用の促進化を促す（取壊しに対して補助金を出す等）

③ 除雪（10件）

- 雪対策／雪害対策（3）
- 除排雪／除排雪等の環境（2）
- 今年は特に住民アンケートでも要望の多い除雪対策など10年後というより、目の前の課題を解決しないといけないと思う
- 除雪の対策がうまくいけば、江別市も通年住みやすい都市になり、人口減少対策の一環になる。
- 除雪業者の確保
- 除排雪の施工方法が、高齢化社会の今と合っていない。特に置き雪の塊を市民に処理させようという考えはおかしい。道路の路面を削って発生した物であれば、原因者負担の原則で、市の除排雪業務の中で処理すべきである。
- 冬期間における除排雪。除排雪に関わらず、市として災害に対する対応方法を都度見直すべき

④ インフラ（6件）

- インフラの改修／インフラ整備／都市基盤の整備（3）
- インフラ等の維持。力の入れ具合は、現状のままでよいと思う。必要に迫られてない限り、新たな分野には手を出すべきではないと思う。
- 郊外地域の上下水道整備
- 道路、市営住宅、上下水道等都市基盤の維持

⑤ 治安、防災など（5件）

- 治安

- 防災
- 救急・災害対応力の強化、職員数の増加。条例改正により消防職員が130名になってから、救急件数が倍以上になっているにも関わらず、職員数が増加していないため、職員一人一人の負担が増え、災害事案、救急事案輻輳に対応するための、非番、週休職員の召集が常習化している。結果的に時間外手当も増加しているため、職員を増加させ、根本的に見直す必要がある。
- 災害に強い町づくり。地震はいつ来るかわからない（更なる備えが必要）。今回の大雪も一種の災害（今後、各担当・業界で対応策を考えるべき）。
- 自然災害に強い地域づくりが必要。
- 熊対策。

⑥ 公園（2件）

- 犬も楽しめる公園づくり
- 公園整備。他市に自慢できて人が集まる公園の整備。スケボーパークやクライミングウォールが整備された若者向けの公園や、小さな子供たちが1日遊べる遊具の充実した公園（滝野スズラン公園や砂川こどもの国のような）の整備。BBQに特化した公園があっても良いかと思えます。

⑦ ごみ（1件）

- 他市町村のようにゴミの分別をしっかりとすべき

（5）環境【29件】

環境に関する内容が挙げられた件数は29件で、環境問題への対策に関する意見が多く挙げられています。

① 環境（25件）

- 環境問題／環境問題対策／環境への配慮（10）
- 環境問題対策／地球温暖化対策／再エネ、ゼロカーボン（5）
- 環境に配慮したクリーンなまちづくりを推進する
- 環境対策を軸とした地域活性化を図る。
- 環境問題に関してCO₂削減のための施策（補助金の拡充）を推し進めるべき。
- 環境問題対策。SDGsを踏まえ、持続可能な社会の実現のためにも、環境問題対策は必要であり、市内の企業や住民を巻き込んだ取り組みが求められる。
- 環境問題対策として再生可能エネルギー事業に対する市独自の補助など。EV普及の促進を目指した導入補助、インフラ整備。
- 環境問題対策を進めた方が良いと思えます。ゴミや緑化など幅広い分野が関わることになるので、簡単ではないですけど。
- 再生可能なエネルギーなど環境にやさしいまちづくりを推進する企業、産業の誘致、育成が必要。
- 脱炭素社会実現のための国庫補助等の支援を活用し一般財源を保全した

【2 力を入れるべきまちづくり分野】

施策展開

- 環境問題対策（宅地造成の推進）
- 環境問題を論じるなら、環境に影響を及ぼす企業はいらない。

② 自然、景観（4件）

- 環境美化
- きれいな街づくり
- 美瑛のように山はないがもっと景観や森林を保持して安らげる街づくりへ。都市化にするのではなく古来の農村地域のように自然を生かした防風林や植樹、木を植えて自然の生き物が暮らせるような森の保持。桜や四季を楽しめる造園づくり。
- はるにれの木のようにシンボルの木を植えたり、できれば地上にある電線を地中化して美しい街づくり。石狩川河川を桜ロードにするとか景観を考えた都市へ。江別は散歩しても美しいと思ってもらえるように。

（6）多様性、コミュニティ、市民活動【21件】

多様性、コミュニティ、市民活動に関する内容が挙げられた件数は21件で、地域コミュニティの活性化に関する意見が多く挙げられています。

① コミュニティ（17件）

- 地域コミュニティの活性化（10）
- 産学が連携した地域コミュニティの活性化（大学やCCRC等、既存資源の連携による活性化）
- 自治会・町内会などの地域コミュニティを中心とした考え方を見直す。若い世帯は地域コミュニティに参加しませんし、参加させることも難しくなると思います。10年後には「結婚しない30代」「結婚しても子供は産まない40代」「賃貸物件に住み続ける50代」が増加しますので、地域コミュニティに依存しない街づくりが必要になると思います。除雪・排雪、ごみステーション、花壇・・・等々、これまで地域コミュニティが中心となり実施してきたことが、これからは成立しなくなると思いますので、新しいモノの考え方が必要になると思います。
- 地域コミュニティの活性化が、安心して暮らせるまち、子育てしやすいまち、に繋がると思います。
- 地域コミュニティを活性化し、有事の際、市民協働で乗り切れるようにする。
- 地域間での互助の強化や地域コミュニティの活性化。
- 目的別の地域コミュニティの活性
- 人口減少局面であっても、市民がいきいきと暮らせるかであり、「地域コミュニティの維持と生涯学習の充実」に力を入れるべきものとする。

② 市民活動（2件）

- 市民の活動の多くが、札幌市で行っている場合が多く、市民を外部からの流入により増やすことも重要だが、市民の活動拠点を江別市に持たせ

るようなまちづくりが必要と考える。その手段に企業立地やデジタル化、少子化や人口減少対策などがあると思う。

- 自助・共助の啓発・強化。

③ 多様性（2件）

- ダイバーシティ化
- 江別市においても外国人住民は増加傾向にあると思うので、多文化共生のまちづくりも必要かと思います。

（7）土地利用、市街地【19件】

土地利用や市街地に関する内容が挙げられた件数は19件で、駅前の活性化やコンパクトシティ化に関する意見が多く挙げられています。

① コンパクトシティ（7件）

- コンパクトシティ化／まちのスリム化・コンパクト化（5）
- 人口減少を見据えたコンパクトシティ化
- 成熟期にある我が国においては、少子化・人口減少は抗えない事象であるため、これに対抗する政策に大規模予算を投じることは望ましくない。人口減少社会を受け入れ、コンパクトシティ化へ力を入れるべきでは。

② 駅前（7件）

- 各駅前活性化
- 江別駅、高砂駅、豊幌駅周辺の活性化
- 江別駅周辺の再開発／江別駅前の再開発（3）
- 江別地区の活性化
- 江別駅周辺利活用

③ 土地利用（2件）

- 農地と宅地の充実
- 遊休市有地や、網掛け民有地の開放による市内全体の遊休資産の活用だと思います。これから先何をやるかの前に、これまで何をしてきたかを振り返った上で、負の遺産を精算することが先決だと思います。当時の計画は、当時見立てた明るい見通しを前提に先輩達が進めて来たものであり、それがそうではなくなった実状においては、先輩たちが先駆者となって進めて来た計画に敬意を払いながら、後輩の我々が胸を張って軌道修正すべき。

④ そのほか（3件）

- 江別、野幌、大麻にこだわらない街づくり
- 今後は、各地域別（近隣住区単位）での高齢者の割合（高齢者率）を把握し、市の政策に反映させていく必要があると思います。高齢者の割合については、市街地の発展時期と比例しているのではないかと思います。極端にいうと、高齢者の割合が高い地域はこれまで「市街地の中心部付

【2 力を入れるべきまちづくり分野】

近」が多い傾向だったと思いますが、市街化区域編入の経過等を踏まえると、これからは状況が変わっていくのだと思われます。江別市における市街化区域拡大は、15万人都市を目指し、市街地を外縁拡大型で対応した時代があります。例えば、平成3年以降に実施した組合施行の区画整理（上江別南、もえぎ野、野幌東、新栄台等）などが郊外型の住宅開発でした。これらの地域には、平成5～10年頃をピークに30代から40代の方々が転居されてきたと思います。これらのことから今後を考えると、これからは「郊外住宅地における高齢化対策」を考えていく必要があるのではないかと思います。（一例として、公共交通網の充実を図るのであれば、南大通の全線開通を急ぐ必要があるなど）今次の総合計画においては、地域別に高齢者割合の推移を把握し、何等かの都市政策の方向性を示すことが望ましいのではないかと思います。

- 人口から人口密度によるまちづくりの推進。都市計画の市街化区域は、将来の都市における人口や産業を適切に収容する規模とし、都市における人口や産業の動向、急速な少子高齢化の進行といった現象を総合的に勘案し、特に中心市街地等の既成市街地に商業機能や住機能などの都市機能を集積する取り組みを行うため、市街化区域の拡大は極力抑制するという方向性で、これまで全国各地で都市づくりが進められており、江別市においても、住居地の範囲は、現状の市街化区域を基本とし、市街化区域の拡大は必要最小限にとどめた内部熟成型の市街地形成を掲げ、野幌駅周辺のまちづくり等を進めてきたのだと理解しています。既成市街地における人口密度の高度化は、整備された都市基盤を最大限利用することができるため、効率的で利便性の高い都市機能に繋がり、また、税収の増加等にもつながっていくものと考えます。しかしながら、一方では、大型宅地開発等が行われた場合は、道路や公園、上下水道、除雪などの新たな施設等に係る維持管理費が将来の必要経費として重くのしかかってくる場合があります。例えば、今年1～2月の除排雪の状況に関しても、除雪機械や人手不足という問題だけではなく、江別市の宅地状況も影響しているのではないかと推察します。都市計画では、市街化区域内人口を可住地面積で割り返した可住地人口密度を80人/h a以上を目標とし、市街地形成を図っているのではないかと考えられますが、可住未利用地が余りにも少なくなる場合（住宅地で空地が極端に少ない場合）などは、居住者は、宅地内の雪を道路に堆雪する傾向が強くなり、結果的に危険な道路状況が発生する、あるいは除雪経費が膨らむ等の問題を発生させているのではないかと考えます。豪雪地域の取り組みという点では、青森県青森市のコンパクトシティの取り組みなども以前は紹介されていましたが、まちづくりに関する指標において、住区単位がいいのかはわかりませんが、まずは、地域別の人口密度について、計画と現状を明らかにし、状況分析を行う必要があるのではないかと考えます。例えば、郊外の住宅地などでは、冬の暮らしを考え、地区計画等で公開空地等を確保し人口密度を抑えた都市づくりを積極的に取り入れること等も考えられます。雪対策は建設部（土木事務所）だけの問題ではなく、その根幹をなす都市政策が強く求められるのではないかと考えます。第6次江別市総合計画においては、市全体の人口の推移しか示されていませんが、今後においては、各地域別（近隣住区単位）での人口密度について、計画と現状を把握する必要があるのではないかと考えます。

(8) そのほか【177件】

① 少子化対策（65件）

- 少子化対策（48）
- 少子化対策（税収が見込める）
- 少子化対策。より子育て世代が入ってくるような施策
- 少子化対策。子育て世帯への魅力はあると思うのでアピールできるように思う。
- 札幌市のベッドタウンとして、子育て世代が住みたいと思う都市に。
- 子どもがいる家庭を支援できるような施策を考えれば少子化と人口についてはクリアできるし、地域の活性化にもつながるのでは。
- 少子化対策。高齢者に住みやすい街づくりはもちろんです、若い世代が住みたいと思う街づくりをしていかないと、定着率は上がりません。市内の少子高齢化を抑制するためには、昨今の核家族の増加、給料の減少、税金負担の増加のために出生率を上げることは難しいですが、若い世代の移住を促進するのはやり方次第で容易であると思います。
- 少子化対策・人口減少対策、条丁目地区再開発
- 少子化対策・人口減少対策。人口の維持無くして街は維持できない。近年の建設コスト上昇、地価上昇等の社会背景を考えると、今後、他都市への定住化の増加、経済的理由（家を建てたローン返済が大変）による出生率の低下が想定される。子育て世代が、あえて江別を選び、子供を育ててもらおう動機づけのため、その他の都市には負けない（特に他の札幌圏の都市）、子育て経費の軽減化（中学生まで医療費無償化、給食費の減免等）、魅力的な子育て環境の形成（学力向上に向けた施策等）が大切を感じるため、予算の重点化を図り、「子育てに力を入れる江別市」としてPRしていければと思う。
- 少子化対策・人口減少対策など。江別に住んでいる人が子どもを育てやすい、また市外で子育てをしている世帯が江別に住もうと思うような取り組みに力を入れるべきだと考えます。
- 少子化対策で、小中給食費無料。
- 少子化対策として、住宅地の開拓を今以上に進め、子供の人数に応じての特権を付ける等、子供に対してのサービスをもっと充実させる。
- 少子化対策は非常に重要であるため、立地条件の良さを活かしながら少子化対策に必要な市内の就労環境の整備に向けた企業誘致を今以上積極的に進め、長期的に優秀な人材の定住化に繋げ地域の活性化を図るといいます。
- 少子高齢化・人口減少は避けられない問題だと思うので、その下げ幅を少なくする取り組み。子育て世帯の転入が多いので、子育て環境整備。
- 人口減少、少子化対策。人口減少（特に若者）は街が衰退する最大の要因であるため、若者、子育て世代に手厚いサポートが必要。
- 人口減少は北海道単位でみたらゼロサムゲームみたいなことをしているだけなので、本当に人口を増やすような少子化対策が必要だと思う。育てるのにどれだけお金を補助できるかのみ。転入を増やすなら、戸建て

【2 力を入れるべきまちづくり分野】

住宅の建築時の補助制度を前面に押し出すことが良いと思う。市内の利便性のアピール方法に工夫が必要で、なにかに特化した目に見える政策を打ち出すのが良いと思う。たとえば、除雪に力を入れて雪をなくす。市内すべてのゴミ捨て場を専用ボックス化。など。

- 不妊治療への助成を市独自で行うことは少子化・人口対策として市の姿勢をアピールできる。
- 少子化対策（より多く子どもを産み育ててくれる人への支援）

② 人口減少対策（61件）

- 人口減少対策（36）
- 人口流入を促進／人口流入戦略（2）
- 移住支援
- 定住・移住促進
- 他市からの移住促進（人口減少対策）
- 人口が減っても維持できるような対策が必要。
- 人口減少対策やそれに伴う歳入の減少対策。
- 人口減少対策を進め、財源の確保が必須。
- 人口減少対策（子育て・教育分野）
- 人口減少対策（魅力的な街づくり）
- 人口減少対策。今のままでは人口はどんどん減り続ける。さらに、雪が江別市より少ない、北広島市、石狩市、千歳市、恵庭市に人口が流れてしまう。
- 人口減少対策として、駅周辺にこだわらない人口の集積化
- 若者が減っていき、高齢化していくと、そのまちに未来は無くなってしまふので、少子化対策・人口減少対策を優先的に力を入れていくべきだと思います。江別市は札幌と比べても地価が安く、札幌に住みたいけど、お金がないという悩みを持っている人はたくさんいると思うので、そこをターゲットに呼び込めれば良いかと思います。（大麻方面は札幌も近いので、人気になると思います）
- 10年後は人口減少がさらに顕在化し、少子化対策・人口減少対策に力を入れるべき。
- 少子化対策を前提とした人口減少対策（高齢者のみ増えても悪影響）
- 人口ピラミッドをバランス良くするためにもお年寄り世代ではなく、子育て支援・少子化対策に力を入れて若い世代の人口を増やしていくことが先決だと思います。
- 少子高齢化対策
- 急激な人口減にはならないよう対策をしていく必要性はあると思うが、全国・全道的に人口が減少している現実を考えると、「人口は減少するもの」という立場に立ち、減少する人口の中でどうやって社会機能を維持していくかという視点に切り替える必要があると思う。そのためには、近隣市町村との各分野での広域連携やコンパクトシティ、スマートシティに力を入れるべきと考えます。
- 人口減少の理由として、高齢化による死亡率の増加はあると思いますが、札幌などへ移住する人も少なくはないと思います。おそらく江別市に住むメリットや魅力がないからだだと思います。保育園、幼稚園を増やして

待機児童を減らす。通信媒体をフル活用してもっと道内、全国各地に魅力をアピールする。などなど、やれることはたくさんあると思います。財政状況が厳しい中ではあるとは思いますが、今どこに予算を費やすべきか、考える時だと思えます。そして行動すべきです。

- 人口減少について考えることは重要だと思う。住みたいまちとしての魅力を継続して発信していく必要はあると思う。住みたいまち以外にも観光の面も自然や酪農、工場などある施設を活用するほか、企業誘致など地元で働くことのできる雇用の安定も推進していくべきだと思う。
- 住み続けてもらうための方策：市民が人と交流でき、何らかの活動に関われる環境を整備する。地域活動、文化・スポーツ活動、民間活用による起業などの基盤を行政が整備する。
- 若年層の定住（他都市への人口流出抑制）
- 人口減少対策として、決まった数を周辺市町村で取り合うのではなく、数を増やす様な事に力を入れるべきと考える。江別市で出生して、江別市に永住したくなる様に、札幌市などに頼ることなく、若者の娯楽や食事、生活の全てが江別市で完結する様な企業誘致に取り組む。子育てし易い環境づくり。若者世代に目を向けた政策が必要と考える。
- 人口減少⇒社会増を加速させる。圏内（道内）の日本人の移動ではパイの奪い合い。道外の日本人や、外国人の移住に力を入れては。日本人自体が目減りしている中、人口が増えている国からの移住（定住）で純増を狙う。受け入れる側となる江別市民は、よそ者が来たという意識ではなく、仲間が増えたという意識を持つようにする。これがうまくいけば、連動してコミュニティが活性化するのでは。
- 定住してもらえようなまちづくり

③ 住み良さ（13件）

- 子どもから年配の人まで住み良いまちづくり
- 住みやすいまち
- 住みやすいまちづくりに徹する。ベッドタウンの特徴をさらに強化する。
- 住みやすさの促進（市内居住者の住宅確保支援、共働き世帯への補助等）
- 住みよい住環境の推進
- 少子化や人口減は江別市が独自でやっても解決できるものではない。具体案は今出ないが現状江別に住んでいる人が、江別に住んでいて良かったと思えることに力を入れてほしい。公共料金が他市町村より安いとか治安が良いとか住んでいる人がメリットを感じるのであれば噂を聞き転入は増えると思う。ネット社会で直ぐに情報は広まる。
- 少子化対策や住宅を建て易い環境を整え、札幌市より住み心地の良い街づくりを目指す。
- 暮らしやすい環境を整えるとよいと思います。病院や介護施設の充実、買い物のしやすさなど。
- 暮らしやすさが最大の強みなので、そこをより伸ばす政策。
- 観光より、住んでもらうにはという方向に振ったほうがよいと思います。
- 江別がもっと人が住みたいと思えるような街づくり。
- 江別に住む人が江別を好きになるようなまちづくりが理想だと思う。せっかく江別に住居を構えた住民が、「江別が便利」「江別で用を済ませら

【2 力を入れるべきまちづくり分野】

れる」という気持ちになるようなことに力を入れてほしい。要望の上がりやすい子育て世代への助成を充実させる、デジタル化で手続きの簡便性を図る、商業施設の誘致などは直接住民の評価に届きやすいところで、そのようなことに力を入れることで、結果住民は自分のまちを住みやすいと感じ、10年後も人が残ると思う。

- どの分野とはいえないが、長く安心して暮らしていける住み心地のよさを追求するのがよいと思う。

④ 札幌市に近いことをいかす（7件）

- 「札幌市に隣接していることのメリットが最大限となるように」という視点をベースに、どの分野に力を入れるべきかを検討する。
- 現実的に札幌市への依存体質は今後も解消出来ないと考えるため、良くも悪くも札幌市で済む事柄については江別市が注力し過ぎる必要はないのではと感じる。なお、現在までにこの依存体質に変化があったと少しでも感じていれば、このような考え方になっていない。このため、今後江別市がより良い街になり残っていく上では、依存関係では補いきれない市の内部環境改善に注力するよう舵を切る必要があるのではと考える。
- 札幌のベッドタウンだと割り切って、観光やイベントといった市外向けの事業を切り、市内在住者の暮らしやすさ、住環境整備、除排雪の強化、子育て環境の充実、高齢者福祉などに特化するのもひとつの手だと思う。
- ベッドタウンとしての長所を最大限に活かし、人口増に向けて全力で取り組む。ベッドタウンを活かして人口流入を狙っている市町村は他にも多々あるため中途半端な政策では成果は見込めない。
- 札幌のベッドタウンとして、ある程度の食住を充実させたまま、足りない部分を補っていくことで住む人が離れない街となると思う。
- 札幌市との近接性は、強みであると同時に弱みの要因になっている。市立病院の地域医療への貢献においても、札幌で高度な医療を受けられるので、需要に見合わない医療機器や体制を用意することが難しくなっている。医療に限らず他の機能も札幌で得られるなら、市で持つ必要があるのか、慎重な吟味が必要である。
- 背伸びや格好つけるような無理はせず、なんだかんだでサッポロにストーリーして生き延びていくべきだと思います。まちづくりのあらゆる面で。悲観では無く、堂々と武器にして。179市町村のうち、うち含めたほんの一部の市だけなんですから。この恩恵を受けられる市町村は。道内において『サッポロ隣接』、これ以上の強みはありません。いや本当に。サッポロにガッチリ粘着し、より良いベッドタウンになることで、それなりに多くの住民ニーズに応えられる気がします。

⑤ そのほか（31件）

- 現在、人口が増えてきているが、これは別な場所から移住してきている人が多いからであると思います。引き続き、江別市に住み続けてもらうためにも、江別市の郷土や文化を理解してもらい、江別市の良さを認識してもらうことに力を入れたら良いのではないかと考えます。
- 江別市に関わった人が、「住みたい（住み続けたい）」「戻ってきたい」「市のために何かをしたい」という気持ちを醸成する事業展開が必要と考えます。住環境の整備（公園、除雪、買い物、公共交通などあらゆる

方面から住みやすいまちづくり)、企業誘致、起業の促進(税金、就労機会の確保(特に子育て世代))、教育(デジタル化、江別市についての学習・児童生徒対象のイベント実施→地域への愛着の醸成)

- 街のブランディング
- 企業と企業、個人と個人をつなげて、ネットワークを強化する、商品や社会活動で多様性を生み出す。安価に幅が広がると思う。
- 市内に大学があり、学生も多いので、若者をからめた地域の取組ができれば良いと思う。
- 若い世代が江別市で働きたい、住みたいと思うまち
- 若い世代が住みたくなる街づくり(具体策→?)
- 働きざかりの50代世代に何か恩恵的なこと。
- 何か全国的な施設などをたてる計画はどうでしょう?
- 商業や観光業に力を入れて、江別市内で土日祝日を完結できるようにして欲しい。大型商業施設に行きたい場合は札幌、千歳、北広島などに行かなくてはならず、江別市内の店舗では色々と揃えることが難しい。屋外公園は充実しているが、室内テーマパークが何一つない。何か誘致して欲しい。屋外施設についても酪農学園大学、トンデンファームなどと共同し、動物園の様な施設も検討して欲しい。酪農学園大学の卒業生の雇用にも繋がり、若い世代流出防止にも微力ながら繋がるのでは?大型商業施設があれば学生たちのアルバイト雇用にも繋がると思います。
- 社会保障関連へ力を入れることが必要。少子高齢化や人口減少を踏まえると、否応がなく社会保障費の激増と担い手不足が深刻です。もう既に課題は顕在化していますが、このままでは悪化の一途。未来戦略に健康が加わり、以前よりも力が入っていると思いますが、まだまだやることはたくさんあると思います。とにかく、今のうちに社会保障増大を抑える先行投資を行い、少しでも将来の支出を抑え込むことが、今必要な喫緊の対策ではないでしょうか。これから増える社会保障費の伸び率に比べれば、事業費は軽微なものと思います。社会保障費の抑制の中で、高齢者へのデジタル化対応など例示の課題もあると思います。現在の少子高齢化と人口減少が喫緊の課題だからこそ、社会保障関連への更なるテコ入れが重要と考えます。
- デジタル化、環境問題対策などは特になぜやるかを明確にビジョンを持たないと、誰のためにやっているのか分からなくなる危険があります。
- 環境問題に配慮しつつのデジタル化を見据えた物事の誘致
- 環境問題よりもお金に絡む部分?今は色々値上がりしており、江別に住んだらこれが安い、得がある・・・につながるような何か対策があればと思いますが・・・なかなか難しいですね。
- 強みで挙げた「にぎやか過ぎず落ち着いた暮らせる住環境」「自然・農業・都市機能のバランスの良さ」を大切にして、江別市で暮らす人が求めるものを充実させる政策に注力すべきである。「外からどう見えるか」ではない。
- 市内での雇用を増やし、労働人口を増加させたいうえで少子化対策を行う。
- 資本誘致
- どのような領域でも、江別らしさを感じる点を見出すべき。国内の経済情勢等、外的要因にも動じない戦略を講じるべき。

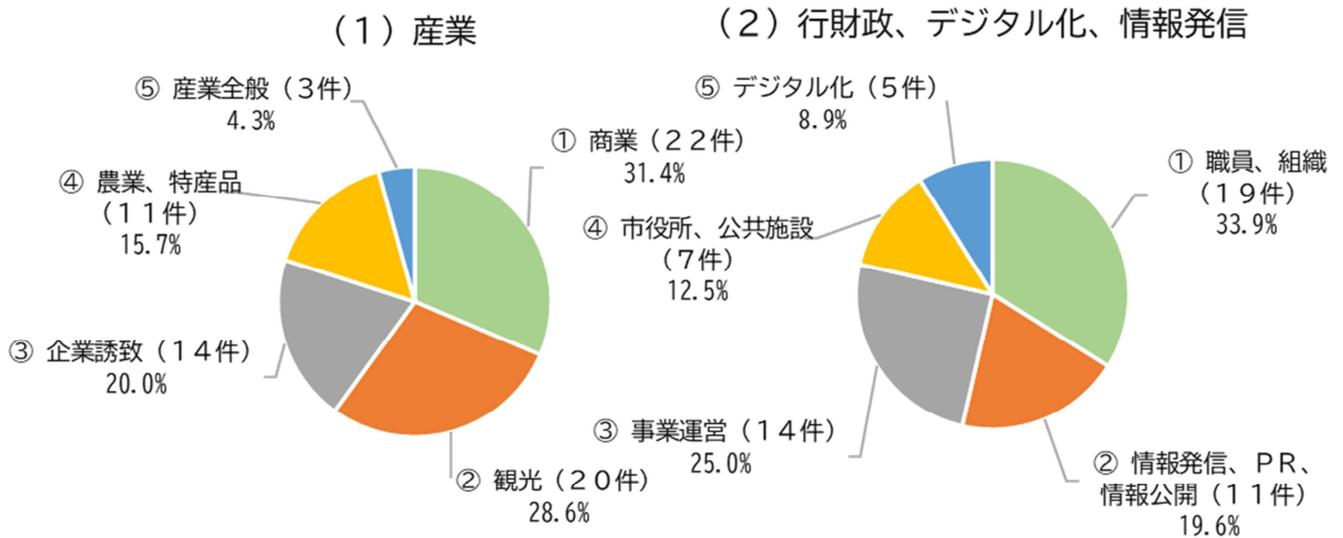
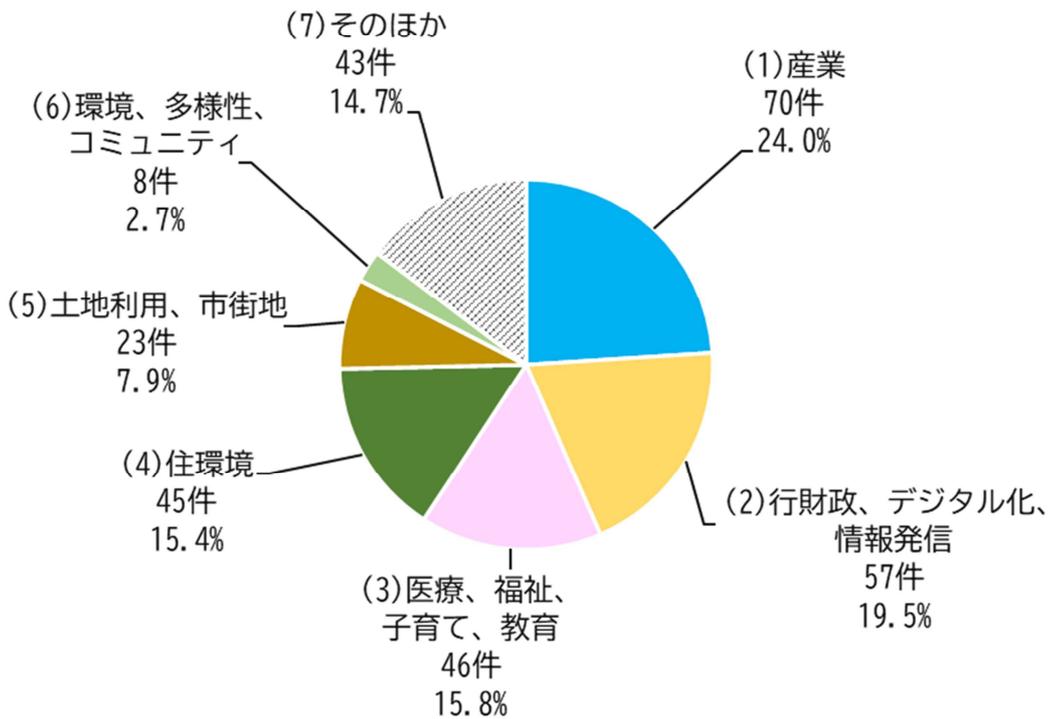
【2 力を入れるべきまちづくり分野】

- 一つだけの対策では継続性がないため、総合的複合的な視点で政策を考えるべきである。市の根幹政策として人口減少対策は必須だが、仕事が無ければ長期定住が望めない。住環境としての魅力やメリットが無ければベッドタウンとしての住宅建設が進まないの、どこかに特化する部分も必要であるが、将来像を見極めて複合的に進めていくべきだと思う。
- 住民への施策の充実なのか、誘客を図る施策の充実なのか、濃淡をつけることが重要なのではないかと思う。どの様な分野に力を入れるべきかという議論も必要だが、逆に色を薄くする事業をピックアップすることをしていかなければ、今後のまちづくりを効率的に進めることはできないのではないか。
- どの分野も大事と思いますが、これからは人口が減少し市民が住む自治体を選ぶ時代になってくる。その時になにか突き抜けた分野がないと、特色がない自治体となってしまうと思います。
- 人口減少に抗わない身の丈にあったまちづくり。
- 生活に身近な部分の施策
- 先を見通す分野に力を入れてください。
- 弱みの改善等。
- 強みを伸ばすではなく、時代に沿った政策が必要かと思う。
- 平均点の高いまちづくりではなく、何かに特化したまちづくりを進めると良い。
- 地域の活性化（2）
- 魅力あるまちづくり
- 地域の活性化。住んだら楽しい場所

3 江別市をより良くするための政策提言

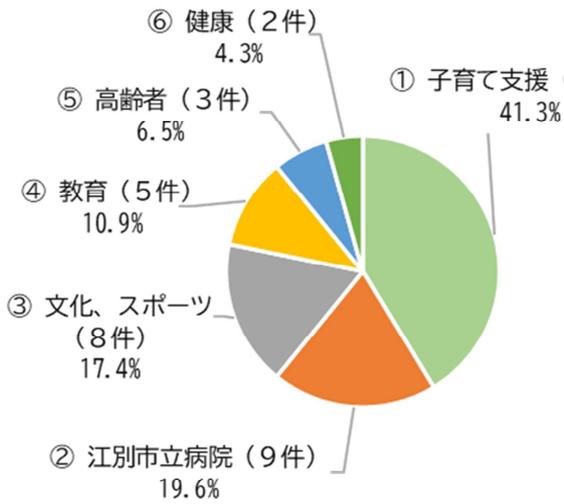
江別市をより良くするための政策提言があれば記載してください。

「(1) 産業」に関する内容が多く、24.0%を占めています。次に「(2) 行財政、デジタル化、情報発信」に関する内容(19.5%)、「(3) 医療、福祉、子育て、教育」に関する内容(15.8%)、「(4) 住環境」に関する内容(15.4%)が続きます。

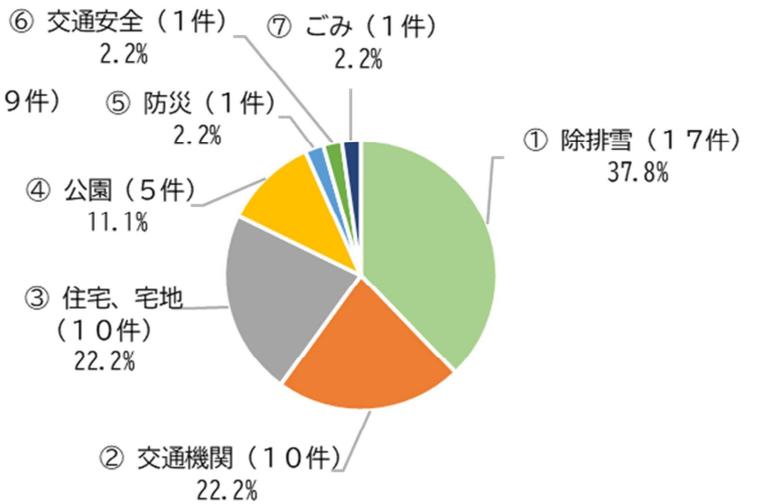


【3 江別市をより良くするための政策提言】

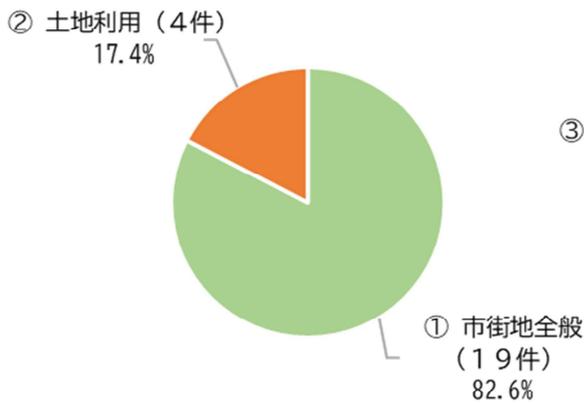
(3) 医療、福祉、子育て、教育



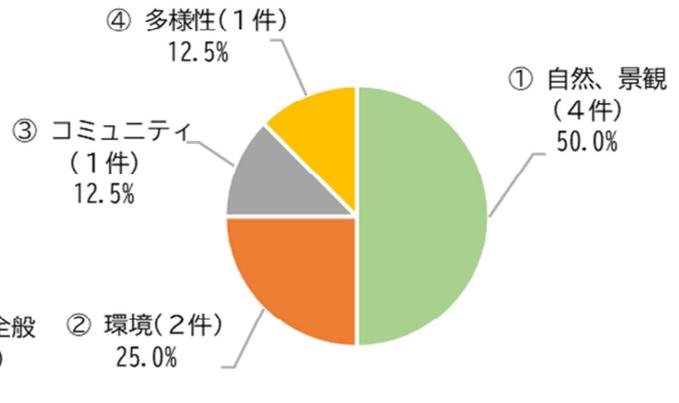
(4) 住環境



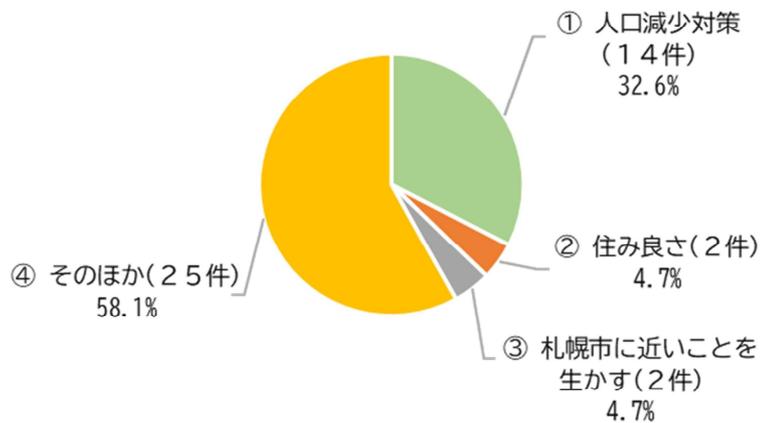
(5) 土地利用、市街地



(6) 環境、多様性、コミュニティ



(7) そのほか



※同じ回答内容については、まとめて記載し、回答者数を（ ）に記載しています。

(1) 産業【70件】

産業に関する内容が挙げられた件数は70件で、商業施設、観光振興、企業誘致に関する意見が多く挙げられています。

① 商業（22件）

- 人気のある商業施設を建てる
- 大型商業施設がもっとあると良いと思います
- 大型店舗の進出をもっと推奨すべき
- 大きめな建物（商業施設）があれば周辺地域からも人口が集まり、活性化すると思う。
- 他市から江別を目的地として訪れてくれるような大型商業施設の誘致が必要ではないか。
- 恵庭や千歳のように、集約されたショッピング施設を開発する企業があるとよい。
- 商業施設があるとよい（恵庭の36号線沿いのユニクロとか集合しているような感じのもの）
- 商業施設の活性化。（ユニクロやGUなどの商業施設があればよさそう）
- アウトレット江別のような大規模商業施設が必要だと思う。
- I K E Aやコストコを誘致して、まず人が沢山きてくれるまちをめざす。
- もう少し企業の誘致を推進したほうが良い。（I K E A等）
- ジャスコなどの大型ショッピングモールがあるといい。
- E B R Iに子育て世帯が利用できるようなお店が入ると、もっと人を呼び込めるのでは。
- エブリの中に、江別の焼き物作家さんたちのコーナー（購入できる）があるといいな～と思う。せっかく「焼きものの街」と言っているので、そこをPRでき、かつ作家さんたちの売り上げにつながる場があるといい…陶芸は、好きな方も多いので、たまに陶芸教室のイベントを設けるなどしても楽しいと思う。「エブリ」をもっと街づくりに生かされると良いと思います。せっかく素敵な建物で立地条件も良いので…。
- 現在はツルハやサツドラなどのドラッグストアでも食料品や簡単な衣料品が買え、市内の各所にホームックがあるので、概ねの生活用品は揃うと思う。さらに伸ばすなら、ユニクロやスポーツ用品など、子育て世代や生涯教育的に活用できる店舗などの誘致が必要と思われる。正直、観光は期待できないので注力しないのもひとつかと。札幌のベッドタウンとしての機能性を向上させることが今後の伸ばすべき点かと。
- 江別市に観光がくるような商業施設を設けたほうが良いのではないかとと思う。立地は非常に恵まれているため人口の減りが大幅に下がることは少ない。この先江別市をより良くするには経営面だと考えられる。商業施設は一つの案である。
- 札幌からの若年層の観光客を増やすため大型ショッピングモールなどがあれば人口も増えていく
- 大型スポーツ、アウトドア用品店の設置（アウトドアブームに対応）。
- 大型企業の誘致など市として利益を得ようとしている感じが全くしない。

【3 江別市をより良くするための政策提言】

若年層を市内に留めたいのであれば、三井アウトレットやユニクロのような衣服を買える施設やニトリのような家具を買える施設の充実も必要（ツルハばかり増えてるイメージ）。札幌市のベッドタウンという性質上、買い物を札幌市でという市民が多くなるのは当然のこと。市民に江別にお金を落としてもらえよう工夫が必要。

- 大型店舗や企業誘致をもっとするべき。人口増と言っても税収アップに繋がるものが少なく、他市町村からも人が来てお金を使うような場所がない。特に観光で伸ばす部分がないので他市町村にはない店舗等を誘致してほしい。人だけ増えても税収を増やさなければ意味はない。目新しいものは必要なく、継続的に人が来るようなもの。
- 市民の地元での消費活動が増えれば、江別市の定住人口が増えるのではないのでしょうか。
- 小売店が多いことを生かし、大都市へ流出している消費を市内消費へ転換する。

② 観光（20件）

- 無駄に箱物を作らない。古い建物を生かし、観光客を呼び込む。
- アイヌ文化の理解につながる施設をつくる、イベントを行うなど…漫画の影響によるアイヌブームが消え去る前に、アイヌ文化を軸に教育と観光分野に力を入れる。
- キッザニアのような半日楽しめる場所があるとよい。江別版とし、農業体験や陶芸体験等のほか、北海道ならではのお仕事も入れる。東京に行くとき、大阪に行くとき、子どもを連れてキッザニアまで足を伸ばしていた。札幌や旭川に観光に来る家族層が江別に足を運ぶきっかけになるのでは。
- これがあるからぜひ江別に行ってみたい、また住んでみたい等・・・というものを。
- もっと旅行で江別に行きたいと思わせる街づくりが出来たら。
- レジャー施設があってもいい。若者が楽しめる場所（パーク）
- レジャー施設や観光スポットの創出、開発、関連企業の誘致。
- 何か一つ抜き出ている特徴があれば、より知名度も上がると思う。子どもが遊べる大きな遊具がある公園（冬はそりすべり）、花火大会、クリスマス、とか。これをやりたいから、これがあるから、江別に行こう！と思えるもの。
- 観光産業や人を呼び込むイベントが全てマイナーだと思う。もっと江別市独自のメジャーなイベントがほしい。
- 宿泊施設があれば、道内を観光する旅行者の拠点になることができますし、ちょっと悔しいですが、札幌観光をする方の寝床にもなると思います。そうすれば、宿泊施設周辺の飲食店を切り口として、観光客を呼び込むことができると思います。
- 森林キャンプ場の集客を増やす。昨今キャンプブームであるため、キャンプ場 HP をおしゃれに一新する。また、全面焚火禁止としているが、焚火台を使用すれば焚火可能なエリアを設ける（焚火需要はかなりあると思います）。
- 土地が広いため、温泉や観光地等増やせると良い。
- 知名度の向上、特産品の販売強化のため市内に道の駅を設置

- 道の駅的な江別バージョン
- 幌内鉄道は日本で三番目に開業した鉄道で江別駅周辺に歴史がある。観光に繋がればいいなと思う。
- 札幌近郊のまちで、千歳は空港、北広はボールパーク、小樽は運河など、ぱっとシンボルになるものがあり、観光に行った際に、ある程度時間をかけて滞在できると思うが、江別にはぱっと思い浮かぶようなシンボルや、観光に来た際に時間をかけて滞在できるような場所が少ないように思う。
- 観光では、北広島市のくるるの森のような、手軽に農業の収穫体験ができるような施設や、採ったものの加工体験など、手軽に体験できるものから、少し時間を多く使い体験できる施設が常に稼働しているものがあれば、子供のいる家庭などは興味が出るように思う。アースドリームのように動物たちと気軽に触れ合える施設などは子供のいる家なので重宝している。
- 原始林を活用したイベント
- 他市から江別を目的地として訪れてくれるようなイベントの開催
- 積雪量が多いので、雪まつりなどに活用できないか。

③ 企業誘致（14件）

- 企業誘致／企業立地・雇用促進（3）
- 大きな会社の企業誘致／大企業などの誘致（2）
- 企業が集積する環境整備
- 企業や学校を誘致し、税収を増やす対策が必要です。
- 企業や北海道発出店の大型店舗等（にあわせて法人も）の誘致等があれば話題になっていいかと思います。
- 企業誘致に力を入れて欲しい。特に、人を集められるような施設、店舗等があれば活気のある街になると思います。
- 江別で働くところをもっと増やすべく、大企業誘致が必要ではないでしょうか。
- 札幌に近接しているメリットがあり、企業の進出しやすい環境を整える。そのために関係する法令等を見直し、規制等を解除できるところは積極的に行う。また、インフラ整備にも市が積極的に取り組み、近隣他市に流れることを避ける。企業が集まれば人口も追いついてくる。大型店舗等も有効であると思う。
- 札幌市を含め近郊の市町村から人を呼び込む企業招致等が必要。
- 自然災害の脅威が少ないというメリットを生かした企業誘致。住環境と教育環境が良いことも企業にとって魅力的になるのでは。
- 大消費地（札幌）の近隣としての、製造業等の企業誘致（企業等）

④ 農業、特産品（11件）

- 酪農業、特に畜産業は需要の伸びが見込める産業なので、もっと支援していくべきと考えます。たとえば、肉牛（えぞ但馬牛）に関しては、30年ほど前まで今の江別クリーンセンター付近の道路ふちに大きな看板が掲げられていて名産品のように宣伝していたのを覚えています。実際、肉牛の需要は伸びる一方で供給が追い付いていません。江別市を変えて

【3 江別市をより良くするための政策提言】

- いくならば、思い切った政策を実行してみるのも悪くは無いと思います。
- 札幌圏という大消費地にあるので、農産物の販路拡大等は十分見込めるのではないか。
 - 質の良い農産物をもっと前面にだすべき。魅力あるまちづくり。
 - 食肉の提供
 - 農業を発展させ特産のものを開発するのはどうでしょうか
 - 農業振興、農村環境整備
 - 農産物を加工して販売するまでの一貫した工程をもっと活性化させる（食化研、大学を巻き込む）。良質な農産品の売り込みと、販路拡大。本州へ江別（北海道）ブランドの売り込みの強化⇒農家などの安泰
 - 良い物を作っている農家さんがたくさんいるので、そこをもっと頑張ってもらいたい。人とは違うことをして江別ならではの農業があってもいい。酪農大学のアイスを市内のスーパー等で買えると良い。
 - クラフト酒蔵の誘致。クラフトなお酒造りがブームとなっているので、ビール以外にもウィスキーやジンなどの手作りの酒蔵を誘致する。江別で取れる小麦などの穀物を利用した酒造りをしてもらい、知名度をあげるとともに観光施設とする。ウィスキーなら江別の泥炭も使えるかも。
 - 札幌という大消費地の隣町であるため、工業製品、農産物等（江別ブランド）をもっと売り込む。
 - 江別を代表するようなフードメニュー（地元の野菜や肉など使用）の開発とPR。

⑤ 産業全般（3件）

- 子供が地元で就職する、夢のある産業形態が欲しい
- 知名度アップや市活性化を目的とした、市内学生と連携した事業展開
- 企業の研修を誘致する。異業種連携型の研修（以前、美瑛町で実施）を誘致することで、全国的な企業の次期マネージャークラスに江別市を深く知ってもらおう。研修の開催地として実際に江別市に来ることで、交通の利便性や気候風土を感じてもらい、江別市を知ってもらおう。そして、江別市の課題をネタに研修に取り組む過程で、伝えにくい江別の魅力を発見してもらおう。全国的な企業に対して江別の知名度をあげることで、将来の企業進出や特産物の販売網が拡大する可能性がある。

（2）行財政、デジタル化、情報発信【57件】

情報発信、行財政、デジタル化に関する内容が挙げられた件数は57件で、情報発信のほか、職員や行政運営に関する意見が多く挙げられています。

① 職員、組織（19件）

- 窓口対応職員の抜本的な質の改善（デジタル化&民間活用）
- 政策に携わる職員の増員と質の向上
- 職員一人ひとりが市民目線で生活をして改善点等を探し、該当する部署に気軽に情報提供や提案をできるような仕組みを作る。市民から情報がくるのを待つのではなく、職員も市民として江別市のことを考えること

で市民目線の改善点等がよりスピーディーに発見できると思う。

- 市職員のやる気が向上する様な組織体制作りが必要。そこが改善されれば、全ての課題解決に繋がる。
- 市職員の意識共有（外に示す提言というより、内部の話）。江別市をより良くするために様々な事柄を進めることは大切であるが、市を良くするには政策に対する市職員の理解度を高める必要性がどうしてもあるのではないかと考える。市立病院に関する一つ取っても、過去からの経緯や現状・病院経営の仕組み等について、市職員に限る話ではないが、理解している人はごく少数なのではないか。様々な「何故？」が積み重なり、今行っていることに対して理解が追い付かない。このようにこの例に限らず、様々な「何故？」という疑問を少しずつ減らし、もっと市職員自体の意識共有を図ることがこれからの江別市をより良くするために必須なことではないか。
- 職員向けに江別市の課題を考える機会（研修やワークショップ等）を設ける等。日々の業務に追われ、全体的な視点を持った職員が少ないと思います。
- どの部署も人が不足している状況なので、人員配置を工夫できればと思います。時期的に忙しくなったり、暇になるところもあるので、そういった部署同士で人員の補完ができればと思いました。
- まちづくりプロ集団としての職員同士の事由活発な議論を促進すること。
- 職員全てが、江別の理想像（あるべき姿）を描き、現状とのギャップを認識し、問題を洗い出し、解決するための課題を打出し、それを実践するようにしなければならない。目先のことばかりに気を取られ、理想像を描けない職員が多すぎる。就職先としての江別市役所ではなく、誇りを持って市民にPRし、協働しあえる関係性を持つ姿勢のある人材を採用すべき。
- 人口増加の流れを維持するためにも、江別市職員が江別市の良さを認識し、市民や外部の人に伝えられるようにする取り組みが必要であると考えます。
- 他都市に比べまちづくりに対する市職員の関心が低いと感じます。従来の制度的な情報共有だけではなく、優秀な人材確保に向けた新たな取り組みや地域の課題解決に向けた副業制度の導入など人材政策が必要であるように感じます。
- 庁内において、事務従事制度を柔軟に運用できるようにすることで、その時に必要な市民サービスに注力できると思います。そのためには、コロナ対応等を災害としてとらえ、一部業務は停止できるようにすることが必要。
- 各部局に多くの課題があるほか、財源からも職員が積極的に政策提案できる状況になっていない。（立案しても部局に余力がなく結局押し付け合いになり、「生煮え」でスタートしてしまうことも）他の課題にとらわれず政策立案に専念できる組織が必要と考えるが実現は難しいかも。
- 残念ながら目が覚めるようなアイデアは持っていません。ただ、市職員がもっと外に出て、市民や企業と忌憚なく話せる時間が作れるとよいと思います。職員が努力不足ということではなく、現業に追われて、「面白そうなこと」を探す、食いつく余力がないように感じます。（コロナ下の今はしょうがないですが・・・）

【3 江別市をより良くするための政策提言】

- 職場以外での地域貢献活動や生涯学習活動を、職員自身が参加し、経験することを促進する。地域のニーズや課題は、普段の生活の中で様々な人と関わり、話すことで把握することができる。職場（執務室）で普通に業務をこなすだけでは、市民目線というものは培われない。もっと地域に根差した市政運営ができるよう、地域の方々と密接に関わる職員を増やすべき。
- 新規採用の市の職員を募集するパンフレットにオリジナリティを盛り込んで募集する。特に技術職の応募人数が減少傾向であり、札幌市や近隣市町村に取られないよう何か工夫が必要だと思う。
- とりあえず職員数を増やしてほしい／職員数を増やしてください（2）
- 市役所以外の仕事を体験してその経験を市役所業務に活かしてみたいため、副業を解禁してほしいです。
- 副業を認める政策を求めます。特に消防職の若手職員は時間、体力があるのに金銭が無く、結果的に借金しては返済を繰り返しているのが現状です。農作業等の就労支援を公に認めることにより、農家の人手不足を解消でき、かつ、低賃金問題も解消できるのではないかと存じます。

② 情報発信、PR、情報公開（11件）

- 市のHPや広報に掲載されている情報も、まだまだ認知されていないことが多いので、さまざまな方法を取り入れ情報発信すべき。
- 何かアピールするものを市民から募集するなどどうでしょう。
- ひと昔前にAKBの「恋するフォーチュンクッキー」をBGMにPR動画を作成した市町村が多くあったが、そういうブームに乗っかってもいいのではと思う。
- ホームページが見つらく、大規模な改修を行ってほしい。特に、今はパソコンではなくスマートフォンで見る人が大多数であると思いますが、スマートフォンで確認したときに各ページのタイトルが見切れていたりするため、改善の余地があると考えます。
- ユーチューバーを使った広報など。
- 炎上商法とまではいかないが、話題性に限って言えば、他の地域に比べて特色が少ないことを逆説的に（自虐要素も踏まえて）取り上げていくことも選択肢の一つなのかなと思う。地味であることも突き抜ければ個性になるのではないかな。（イメージでいうと、テレビ番組の「月曜から夜更かし」で特定の地域を意地悪い視点からピックアップしたり、香川県がうどんを前面に押し出して「うどん県」とPRするような、従来とは違った方面からの広報。）
- 教育のまち、焼き物のまちと肩書は聞いたような気はするけど、中身は知らない。ウリがあるならPRに力を。札幌に近いだけでは人は来ないと思う。他市町村から来てみて、こんなに良い物がたくさんあるのに全く知らなかったものだらけでした。
- 江別市のベッドタウンとしてのメリットがある事のアピールが足りないと思う。例えば、札幌市のオフィス街が集中する中央区へアクセスの良さや、多様な交通手段がある事は、意外に知られていないと思う。札幌市の北区や東区の交通不便地域よりはるかに便利である事をアピールし、定住のアピールポイントにしてはどうか。当然、教育環境の良さや育児環境の良さへのアピールや更に改善を継続する事柄であるが…。

- 聖地化。小説や漫画や映画などの聖地となるような取組を行ってはどうか？例えば、桜木さんに江別題材の本を書いてもらい、江別をロケ地として映像化など。旧林木育種場をうまく使ってもらえたら良いですね。
- 道の駅や公式ゆるキャラを作るなど、ニュースになるようなことで江別市を取り上げてもらい知名度を上げる。転入増を維持するため利便性の良さをアピールする（SNS発信、住み良いまちづくりを政策でも掲げる）、様々なマニア界で有名になる。歴史（松浦武四郎の記念碑をたてる、江別古墳、円形小学校）小麦やパン（ハルユタカ）、お酒（瑞穂のしずく）、野菜（直場所の多さ）等。江別の良さを市民向けにも発信することで、市民の江別愛を育てる。職員も江別を好きになる。
- 現状住んでいる住民の満足度を上げることがより良くする方向に進むと思うので、いい面、悪い面の情報をもう少し住民にオープンに公開する必要があると思う。

③ 事業運営（14件）

- 事業が多岐にわたり拡大している中、政策提言ではなく、政策逡減を進めるべきと考える。
- 「江別市をより良くする」という言葉が漠然としていて質問の意図が不明ですが、「江別市の行政事務」をより良くするためのアイデアを記載します。ネット普及前などに作られた規則や要綱などの改定。DXを進めるために必要。（特に文書・公印関係など）、自由に政策を考え調査研究できる職場風土の醸成。職員提案のようにいきなり理事者へ提案ではなく、職員自ら同志を募ってワーキンググループを立ち上げ、調査研究できるような環境づくりと、それを評価する仕組みづくり、定型業務にRPAを導入する
- これまでの業務において行っていたこと（通知の仕方や周知、計画等）については例年同様と容易く行うのではなく、しっかりと情勢変化等に見合わない部分がないか等を確認し、反映させていくことが必要だと思います。
- 既存事業の抜本的な見直し（統合・廃止）。既存業務のスリム化（AI等の導入で業務を簡素化）
- 事業内容の検証の強化。これまでも事務事業評価などを活用しながら進めているとは思いますが、既存事業を廃止することへの抵抗感はいまだに大きいと思われる。（行政としては必要があって行っているという前提であり、どのようにして効果を伸ばしていくのか、という思考が強いと感じる）長く続けている事業でも、今一度、必要性や費用対効果、どこを到達点にするか、等を検証し、思い切った「選択と集中」を進め、人員や予算などの資源を捻出していく必要があると考えます。
- 書類、手続き、サービス、事業、計画、箱物、政策の断捨離。市独自サービス廃止による財源を活用し、マイナンバーに紐づけされた口座へ給付する地域版ベーシックインカムを導入
- 歳出を減らす対策が必要です（市立病院の再建等）。
- 「新規事業を立案するときは、既存事業をスクラップしなければならないという縛りを設ける」（法定業務など必須事業は除く）。市役所業務で一番難しいのは、既存事業をやめる（スクラップ）ことだと考える。担

【3 江別市をより良くするための政策提言】

当者が必要性に疑義を感じて提案したとしても、関係機関への説明に苦慮することや、議会や市民への説明をするのが難しいとの意識から、事業廃止の判断ができずにいることが多いように感じる。今回のアンケート等を経て、第7次総計を策定することになるが、市の施策方向性が示され、重点的に実施する事業が決まったとしても、そこに予算と人員をさけるのだろうか。今後、予算に限りがあり、職員の増員が見込めない当市においては、全庁的に取り組む必要があるのではないか。

- とかく、行政は、完成されたスキームが無ければ着手できない雰囲気満載です。もちろん、市議会の厳しい目線もあるでしょう。そんな過剰なリスクマネジメントを世間では「石橋を叩いて壊す」なんて揶揄されたりします。挑戦しやすい仕組みづくり、試しに着手してみて状況を見ながら修正できる環境、社会実験的な取組を支援する気風・・・そういうところに少しずつ風穴を開けて行って、職員一人一人の考え方を含めて、保守的な空気を換えていったら良いと思います。
- 失敗を恐れずなんでもやってみるべきだ。
- 何か新しい事を始めようとしても、無難で批判が少なそうな中途半端な意見しか見えてこない。全ての人を納得させることなんて所詮無理なんだから「斬新的」な考え方も必要と考える。少し視点を変えて「本当に江別市って駄目な所なの」「江別市って何が駄目なの」から考える事が必要なのかもしれない。総合計画を策定するにあたって、「何かあげなきゃ」とか「何か今より良くしなきゃ」など脅迫観念に市職員が陥っているのではないかと思います。
- 社会資本の断捨離。老朽化に伴い維持管理費も増高することから、費用対効果の低い道路橋、公共施設等を断捨離しては。
- 何すべきかではなく、何をしないかを意識したほうが良い。一つの案件を決めるのに、関わる人が多すぎる。数人で意思決定出来ないなら、関係者を増やせば増やすほど決まらなくなる。また、現場に精通したスタッフが導き出した方針を、念のために集められたその他大勢が、別の方向に持っていくよくあるパターン含め、とにかく市役所内部の改革を進めた方が良い。そのための大規模な改革会議など開かないように。
- 公共料金の支払い方法1つをとっても、時代の変化に対応できていない街である。5年前に決めたことや10年前のプランを継続している等、考え方が古すぎる。時代は日々進行しており、日々見直しが必要。国家公務員とは違い地方自治体はまだ動きがしやすい。そこを全面に押し出し、様々な検討や議論を交わして日々進化し続けることが大事である。一般企業を見習うべきである。

④ 市役所、公共施設（7件）

- 市役所を新しく建て直す時があれば、地域コミュニティ的な何か、多目的に市民と市役所の人とが交流できるスペースを取り入れてほしいと思います。（何かの例：障がい者就労のお店、児童放課後預かりルーム、高齢者のサークル活動など）
- 市役所本庁舎の建設の際、先進的な設備を導入して話題を集める。
- P F I 等により市役所の財源以外で資金を調達し、公共施設を充実させる
- 中心市街地に存在する公共施設を売却、統廃合して、郊外に施設を移転

- 庁舎、市民会館、青年センターなど老朽化が進む施設が多い。市立病院を抱える市の財政状況を考えると、市全体の公共施設の統廃合について本格的に議論すべき時期に来ているのでは。
- 既存施設の見直し（長寿命化・廃止も含め検討）。
- 木製遊具や観光振興にかけるお金があるのなら老朽化した学校や公共施設の改築・修繕等に使ってほしいです。見栄えがするだけの浮わついた政策より福祉や教育など基本的な部分に重点を置いた政策としていただければと思います。

⑤ デジタル化（5件）

- デジタルツールを活用して、人員と経費の削減に努めるべきかと思いません。ツールやの整備を進める上では、一定の予算を割く必要があると思いますが、得られる効果をきちんと吟味して、投資すべきところに投資していくべきだと思います。（現状の政策の進め方では、デジタル化という分野に関して言えば、世の中の流れより5年以上出遅れていると思いません。）
- 「デジタル化推進」と言われても、単にIT化を進めたいのか、目指すはDXあたりなのか判然としない。中途半端に手をつけるなら早めに外部人材を入れ、進むべき方向性を見定めた方がよいのでは？
- デジタル化を標準とした江別市
- 他市町村では、そういった取り組みを行う民間企業を積極的に取り入れている事例もあることから、行政手続きの大半をデジタルで行えるとよいのではないかと思います。市のメリットは、利便性の向上や書類の削減も見込めるのではないのでしょうか。企業のメリットは、運用によるデータの蓄積が行え、システムの品質向上が行えるのではないのでしょうか。
- 各公民館や市の施設や道の施設、駅などWi-Fi環境を整える。

⑥ 協働（1件）

- 江別市の魅力は「人材」と思います。どの分野にも、“江別市を良くしたい”、“この課題をなんとかしたい”と考え、真剣に考え取り組んでいる市民や専門職の方々も思っている以上に多くいます。未来戦略の推進基盤は『協働』ですが、協働事業実態調査を見ても既に組織化された団体ばかりで、市の課題を一緒に解決していくパートナーとしての『協働』という点では、まだまだのびしろがあると思います。一方、有志の一般市民レベルだと集めにくい、信用面で心配、コントロールが大変、正式な委託ができないなどの弊害があり、手を出しにくい分野であることも事実だと思います。予算編成方針の重点事項に示す、行革の外部委託の幅を市民協働にまで広げる等にて柔軟な協働の形が示されて、手をつけるべき領域と職員に認識されれば、もっと広く活用されるようになるのかもしれないと思いました。

（3）医療、福祉、子育て、教育【46件】

医療、福祉、子育て、教育に関する内容が挙げられた件数は46件で、江別市立病院や子育て支援に関する意見が多く挙げられています。

① 子育て支援（19件）

- 子育て環境の充実の継続
- 子育て環境がもっと整ってほしいです。
- 子育てしやすい環境であるので助成等を充実させていければよいと思う
- 子育てしやすい環境整備を行い、より一層の転入増を見込む。
- 子育てのまち（みんなにとって住みやすいまち）
- 子育てに力を入れるため、福祉の町としてのイメージは捨てていくべき。高齢者には優しくない町として生き残るしかない。
- 子育て政策により人を呼び込むことで生産年齢人口が増加し税収も増える。それにより、他の政策にも力を入れることができる、好循環が生まれ出せると考えます。
- 人口減少時代においても持続可能なまちづくりを進めるためには、引き続き、子育て世帯に選んでもらえる魅力的なサービスを提供することが重要だと考えます。
- 14歳以下の転入超過を維持していくため子育て世代向けに特化した市街地をつくる
- 規模は違うが明石市のように、子育てするなら札幌も近いし江別がいい、と安心して出産や育児をできるような環境整備をしていくべきかと。
- 江別のアピール、こんなにいいものがある、保育はここに力を入れてます！子育て支援事業など
- 今以上に子育て世帯が住みやすい街にしてアピールしていく。
- 今後も子育て世代を引き込めるような政策を続けていくべきだと思います
- 札幌市のベッドタウンとして、子育て世代が住みたいと思う都市に。医療や福祉、居住環境の向上を一番に進めるべきだと考えます。
- 子育て世代のためにえみくるに遊び場施設をつくるが、中途半端な施設であると思います。やるのであれば大々的なものをつくれればまちの強みや宣伝にもなるが、単に小さな公園が一つ増えたようにしか評価されないと考えます。つくるのであればPR効果や実感が伴うものとすべき。
- 少子化対策、特に子育て対策（特に放課後児童クラブ）が不足していると感じるので、共働き世帯支援のために必要かと考えます。
- 子育て世帯への転入に対する支援と転入後の支援策の充実
- 待機児童の解消。
- 10年後の市の活性化のためには若い世代をより多く受け入れる姿勢が必要ですので、ドラスティックに子供の医療助成対象を小3から中3まで引き上げるのはいかがでしょうか。良くも悪くも大都市が近くにありますが、安易に比較されてしまいます。大都市とは予算規模が違うため、同じようなサービスを求めること自体が難しい面もありますが、これまでの様々な政策が功を奏して、当市は年少人口が増えている状況ですので、このチャンスを逃すことなく注目を集める政策（確か大都市は小6までだった）として提言します。

② 江別市立病院（9件）

- 現状の財源圧迫の要因として江別市立病院の赤字経営が大きいと感じる。

職員の給与を削減してまで運営している必要があるのか疑問もある。江別市立病院の存続について住民投票を行ってみてはどうか。（江別市には総合病院として機能している病院が他にもあり、クリニックも多数ある。札幌市の専門病院も近い）

- 江別市立病院の解体。今を乗り切ったとしても数年後にはまた医師不足等で患者が減り同じことを繰り返す。掛かりつけの患者が何かあった時に診療をしてもらえない病院には普段から受診しなくなる。他の民間病院に掛かった患者はもう戻らない。全員ではないが医師も看護師も態度が悪すぎる。民間ではありえない奴等もあり、そんなところに自分や家族の健康を託す人はいない。
- 江別市立病院の経営にあっては、隣の札幌市には江別市を超える評判のいい病院が多いため、やはりそういった病院の先生を集め患者を集めるほかないと思われる。それから機械をそろえ、外観を良くしたりするのが賢明だと思われる。もちろん上記の事が非常に難しいと承知の上であるが、実行できなければ診療領域の規模縮小、最終的には無くして江別谷藤病院や溪和会江別病院に市内の病院として頑張ってもらいたいと思われる。
- 市立病院について小児科に力を入れていることは伝わり、とてもよいことだと思うが、産婦人科については少し考えた方がいいと思う。妻が市立病院で出産をしたが、食事もおいしくない、風呂も汚くマットも常に濡れている状態など、不満が多かった。市立病院で出産するメリットは近いことぐらいしかなく、次回からは札幌の病院で出産するとまで言っていた。経営について厳しい状況であり、細部までサービスが届かない状態であることは、仕方のないところではあるが、利用するものの意見としては医療の質だけではなく、使用する環境や衛生環境なども大きく影響していると思われるため、そういった所に配慮することで多少利用したいという人は増えるように思う。
- 市立病院の救急受け入れ態勢のさらなる改善
- 市立病院の診療内容をもっと充実させてほしい
- 市立病院を廃止（できれば民間医療機関へ譲渡）し、そこで浮くリソースを他の政策へ回す。
- 市立病院経営悪化の解消を最優先にすべき。
- まずは様々な施策にチャレンジできる財政的余裕を確保するために、市立病院をどうにかすること。

③ 文化、スポーツ（8件）

- 文学賞の創設。地方文学賞を行っている自治体はいくつかあるけれど、北海道にはない。当市には、桜木紫乃先生や小路幸也先生など著名な作家が在住している。そういった先生方に審査員をお願いすると箔が付く。たとえば、「江別を舞台にした作品」とテーマを決めると、作品を執筆するために「北海道の江別？どんな街なんだ？」と全国の作家志望者が江別を知るきっかけになる。書くために一度行ってみようという気持ちになるかもしれない。また、中学生以下部門などを設けることにより、小さい時から文学に触れる機会を生むことができる。また、地域への愛着もわく。また、「子ども盆踊り」発祥の地でもあることから、詩についてのコンクールでも面白いと思います。

【3 江別市をより良くするための政策提言】

- 生涯学習の充実（文化芸術、スポーツ活動の支援）
- コロナが落ち着いたら近所の大学に勉強に行ったりできたらいい。
- 苦情にならないように時間などを定めて、野幌公民館の野外ステージなど、活動したい人に市の施設を無償で貸し出しては？使いたい若者はいないのだろうか？衣・食・住を満たした上で文化面の政策は豊かな生活には必須とおもう。
- 江別市は、良くも悪くも抜きんでたものがないので、恵庭市が花を中心にまちづくりを進めたように、具体的でキャッチーな何かが必要だと思います。個人的には、「スポーツのまち・江別」を推したいです。教育の一環ではありますが、まずは小学校から大学まで、好成绩の部活をより積極的にPRしたり、補助を手厚くすることで、道内外から学生やその家族を呼び込みます。そして社会人や高齢者には、体育館の使用料を無料にするなど、全世代が運動に関わりやすい環境を整えて、他市との差別化を図るとよいと思います。また、注目すべき種目としては、卓球がすごくいいと思います。卓球は、道具さえあれば、ちょっとした会議室や空き教室などでもできるし、高齢になっても楽しめる数少ない競技だと思います。サッカーやバスケット等と違い、フィジカル的な要素に占めるウェイトが小さく、元気な若者が老練な高齢者に負れたり、男子が女子に負けることも多々あるので、多種多様な交流を生み出す可能性を持っています。市内あちこちで卓球をしている人が常にいるようなことになれば面白いですし、健康推進にも繋がると思います。カラーが無かった江別市に、そのくらい思い切った政策を打ち出してほしいです。
- スケートボード等のストリートスポーツができる場所の環境がほしい。野幌駅前での衝突事故や騒音問題もあるし、多くの若者（小さな子も）オリンピック以降、興味を持っている流れもあるので、やっている側もしていない人も気持ちの良い環境が良い。スケートボード以外にもストリートダンス等の様々なジャンルから需要はあると思う（釧路ストリートスポーツパークのような場）
- 企業誘致として、冬場に屋内でスポーツが出来る施設の建設。（野球、サッカーなどできる大型施設が江別市にはありません）
- 年齢にかかわらず、スポーツの活性化、体力づくりなど。

④ 教育（5件）

- 教育格差の是正、一部海外で行っているような、大学卒業までの交付金的なものを支給（少額の額でも）など。
- 公立高校のブランド力も子育て世代には重要な要素と感じます。
- 人口減少対策として教育に力を入れ、子育て世帯の人口増加を促進する。
- 大学、JAカレッジ、消防学校など教育機関が充実しているため、教育機関への誘致を進めていけば良いとおもいます。
- 大麻地区は教育レベルが高いと思う。その高さを子育て世代にアピールしても良いと思う。

⑤ 高齢者（3件）

- 高齢者にやさしいまち
- CCR Cから波及した、高齢者等が住みやすい街づくり
- 介護施設を含む高齢者向け支援施設への待遇を手厚くすることで、サー

ビスが充実し、高齢者のご家族が安心して高齢者を預けられる環境が整い、自身の労働に集中できることから、二世帯家族の定住化を促進できると考えます。

⑥ 健康（2件）

- 健康に気を付けている人は、病気になったり介護が必要になる可能性は低くなるので、そういう方たちが報われる施策
- 江別市の他市との違いは、『健康都市宣言』だと思います。未来戦略の戦略1は経済部門、戦略2は子育て環境の充実、戦略3が健康です。戦略1と2は、概ねどの自治体も力を入れていますが、3を明確にする自治体はまちまちだと思います。江別市独自の強みを生かして他市との差別化を図るのであれば、明らかに戦略3と考えます。

（4）住環境【45件】

住環境に関する内容が挙げられた件数は45件で、交通機関や除排雪に関する意見が多く挙げられています。

① 除排雪（17件）

- 除雪の改善
- 雪害対策
- 今年は特に除雪のことが
- 除雪が良くないと定住者は増えないのでは？
- 札幌と除雪水準は合わせられるといいと思います。幹線道路が江別に入ったとたんに除雪が悪くなるのは実感的に住むことへマイナスです。
- 札幌のように地下鉄を敷設することは不可能であると思うので、メインとなる交通手段はやはり自家用車、次にバス・タクシーなどになると思われます。車の交通量を考えると、除排雪対策に対する人的・物的資源の投下量は伸ばすべき点であり、議論が必要と思います。
- 融雪溝などあってもよいのでは。
- 今年に限らず江別市は降雪量が多いので、除雪体制を整えるべき。市民からの苦情も多く、近隣市町村の体制や手順を取り入れることも大切だと考える。冬期は職員を兼任として任命しても良いのではないか。（岩見沢市の方法を参考に）
- 今年は特に除雪の仕方を考えるべき（10センチ降らなくても道路状況に応じて迅速に除雪作業をしてほしい）
- 自治会排雪など思い切った改革をすべき。
- 融雪機購入の助成
- 置き雪。ご近所さん同士で協力して処理するような空気感になれば良いのにとします。
- 除排雪をきちんとしてほしい。雪捨て場までの除排雪をきちんとしないとダンプの行き来が大変になり、交通の妨げにもなると思う。今年が一番ひどいと思う。
- 雪が多いことを理由に他市町村（恵庭・千歳など）へ転出する人も意外

【3 江別市をより良くするための政策提言】

と馬鹿にならない位に多いと思います。住宅、マンションへの融雪槽の設置普及（費用助成）とかいかがでしょう。

- 多雪は仕方ないとしても、除雪労力が軽減できるような政策があれば、他市との差別化に繋がると思う。
- 大雪に伴う道路の渋滞緩和について、国や北海道と協力連携して取り組む。ボトルネックの解消。幹線道路の道路幅確保など。
- 大雪への備えは強化したほうがよい。情報提供媒体と情報量が貧弱。こういうときこそ公共交通機関を使う人を大事にしないと、事業者のやる気がなくなってしまう。

② 交通機関（10件）

- JR以外の公共交通機関の脆弱さを改善した方がよいと思います。
- バス路線が充実しているが、路線を見直して（例えば各駅と〇〇丁目通り等の縦路線）より駅や病院へのアクセスしやすさを目指してもいいのでは。
- 可能であれば札幌以外の近隣市へのアクセス確保。公共交通では札幌を経由しないと動けない状況を改善。
- 交通網の整備→JR以外で雪の影響を受けない地下鉄の整備（札幌市や野幌駅、イオンへのアクセスの充実）
- 江別から距離は近いけど、公共交通がない、ほとんどない場所への移動手段の強化（特に通学、通勤）（北広島、あいの里、当別）（バスの増強、デマンドバスの市外への活用 など）
- 札幌への交通手段を強化することで、札幌や北広島など近隣市で働く世代の定住を図れるのではないか。例）バスの本数を増やすなど
- 札幌市とのアクセスを強化、札幌市と新千歳空港とのアクセス（JR・バス・道路）の強化。札幌市と新千歳空港以外とのアクセスは不便でもよい。江別市は他の札幌市近郊都市よりも、札幌市に近い市となること。札幌市と江別市を結ぶ市営のシャトルバスを運行させたり、新さっぽろ行きのバスを増便させると喜ばれると思います。江別市民は住むために江別を選んでいて、財政的に余裕があれば、本当は札幌市に住みたいという人が大多数だと思います。このような考え方をすれば、江別市独自の特産品だとか、コンサートホールだとか、コミュニティセンターのような施設は全くもって必要ありません。札幌市の施設やホテルを使わせてもらえばよいだけです。イベントは「ポールスター札幌」や「Kitara」で十分です。江別市の人口が増えているのは、札幌市のおかげであることを肝に銘じて、札幌市とのアクセスを強化することこそが江別市の生き残る道だと思います。
- JR以外の公共交通機関の充実（不可能かもしれないが、地下鉄を。。）
- 地下鉄がほしい。
- 地下鉄駅をつくる

③ 住宅、宅地（10件）

- 落ち着いて暮らせる住環境整備
- 子育て世帯の戸建て住宅建設を促進することによって、将来の人口減少対策を行う。

- リモートワーク等に活用できる少し贅沢な住宅を作り、首都圏富裕層のセカンドハウスにする。
- 区画整理を進め、住宅地をもっと増やすことが重要
- 札幌近郊の通勤圏内として住宅建設需要がある中、土地不足、土地価格高騰のあおりを少しでも少なくなるよう、未利用地、市有地について整理し、大規模造成まではいかなくとも土地の民間売却など子育て世代の誘致を。江別市の強みであるこども人口増を維持していくことが必要。
- 区画整理を進め、住宅地をもっと増やすことが重要
- 空き家住宅の活用。
- 札幌市での住宅確保が難しくなっていることから、少子化対策を含めた人口減対策として宅地造成、教育及び交通公共機関の充実を図る
- 市街地における積極的な空き家対策。体験談として、駅チカ等の好条件立地に空き家・空き地が点々と見受けられるものの、所有者と交渉できない（連絡が取れない）、相続等で手が付けられない等の事由により、意欲のある子育て世代が宅地購入できないケースがある。
- 宅地造成だけでなく、中古不動産の推進

④ 公園（5件）

- 子どもたちが遊ぶ公園が多いため、古くなったものなどは再構築し、伸ばしていけると良い。
- ストリートスポーツパーク（中高生が道でやっていることが多いので）や公園に屋根のある休憩所、水場などを増やしてほしいです。
- 少子化が進んでいるが、江別の子育て環境は良いと評価が高いので、子供や親が安らげる公園づくりをしていくべき。
- キャンプブーム、子どもを中心とした遊び場などを考えると、運動公園のキャンプ場に子どもの遊び場を作るなど…子育て世代の親は、子供中心に活動するので。
- 野幌森林公園は、とても魅力的な公園ですが、イマイチ活用されていないと感じます。森林公園の散策と市内での飲食や入浴施設の利用などを結びつけると人を呼び込めると思います。

⑤ 防災（1件）

- 安心のまちづくりのため、現在の災害対応について洗い直しが必要と考えます。

⑥ 交通安全（1件）

- 道路状況や信号機配置場所の改善などが必要

⑦ ごみ（1件）

- ごみ収集の改善

(5) 土地利用、市街地【23件】

土地利用や市街地に関する内容が挙げられた件数は23件で、市街地では江別駅周辺に関する意見が多く挙げられています。

① 市街地全般（19件）

- 街の集約化
- ボールパークにつながる経路として白樺通り沿いなどはもっと活性化されていく可能性があると思うので、鉄道林跡地や若葉町市有地などの地域も含めた野幌駅西側が今後、注目される地域かと思う。それらの地域をさらに民間と市の連携による開発によって、ファミリー層や買い物などで人が集まる場所として活性化させることで江別全体のイメージや活力向上に結び付けられれば良いと思う。
- JRの駅もあるが、駅、駅周辺をもっと活性化しなければならない。若い世代が住みやすい環境づくり。利便性、教育（専門学校等の誘致も含む）、医療。
- 駅前などにある古い商店街がなくなって、マンションが建てば、人口が増えると思う。なお、マンションが駅近で立体駐車場もあれば大雪の影響は少ないだろう。
- 江別はコンパクトシティは無理。JR3駅でそれぞれのコミュニティを発展させるべき。人流を生むためには道路整備のほか、公共交通機関、デマンドの充実が必須だし、そもそも企業が張り付かなければ交流人口だけでは芸能会と同様、刺激がなくなったら終わってしまう。カフェやパン屋は固定客が付けば市内一円で網羅、プロモーションする今のやり方を地道に続けるのが良いと思う。レトロを失わないことも必要。
- 江別駅前の活性化（2）
- 江別駅や豊幌駅周辺にも他市や他都府県の人たちから「江別」に来たくなるような「何か」を作してほしい。
- 江別市は学生と高齢者が多い街だと思うので、両者が共存できて、江別の顔になれるような施設（例：公立の福祉学校（専門学校や大学）、公立の高齢者施設）を江別駅または豊幌駅に作る。
- 江別駅周辺（江別小学校跡地）に目玉となる商業施設があると良い。
- 江別駅付近はさびれているので発展させると良いと思う。
- 所縁の地である「江別地区」の衰退は、江別市全体のまちの印象にも影響を及ぼす可能性があると思いますので、何らかの対策を考えていくことが望ましいと思います。
- 江別地区のまち作り・若い世代の発想・民間の力も活かすと良い。
- 江別地区の活性化。シャッター街と化しているのもっと活気がほしい。人が集まるお店、スポット、大型施設などを配置。（大麻はジョイフルエーケー、野幌はイオンなど。江別地区は？）
- 人口減少対策のためには、江別地区の活性化が必要と考える。旧江別小跡地にマンション建設→江別地区の人口増→江別駅の利用者数の増→江別駅周辺の活性化 につながると思うので、まずは人口増を図るために、旧江別小跡地を活用するのが良い。

- 野幌駅周辺を重点的に事業を進めていくべきでは。（江別駅周辺の発展は江別の顔としている野幌駅周辺が完了した後に手をつけていくべき）
- 野幌地区を江別市の中心地にする。
- 大麻駅周辺の活性化。大麻駅は学生がたくさん利用しているが、駅周辺に学生が魅力を感じるお店などが少なく感じる。市内で一番活性化すべき駅が大麻駅とを感じる。
- 大麻駅や高砂駅を商業施設及びマンションなどとの一体化施設

② 土地利用（4件）

- 10年後の江別市を考えるにあたり、その後の日本全体の流れを推察すると、人口減少がより進むことが予想されることから、単独自治体のみがより良くなることはないと思われるので、市町村合併や広域化を加速し行政の肥大化を抑止しつつ、今からスモールタウンの実現に向かうことが望ましいと考えます。
- コンパクトで需要に見合った都市機能充実
- 国道12号沿線の土地利用の高度化（再開発）を目指すべき
- 都市化促進→JR鉄道林買収し宅地化及び大型商業施設の誘致

（6）環境、多様性、コミュニティ【8件】

環境や多様性、コミュニティに関する内容が挙げられた件数は8件で、景観に関する意見などが挙げられています。

① 自然、景観（4件）

- 自然環境保全、自然と親しむ機会の創出
- 「レンガのまち江別」レンガの建物を大切にし、さらに増やしていけたら素敵な街になると思います。
- E B R I や江別駅近くの古い建物を生かし、煉瓦の町を前面に押し出した方がよいのでは。
- きれいな街づくり実現のための積極的な財政措置

② 環境（2件）

- 環境負荷の少ないエネルギーの利用
- 電気自動車普及に繋がる設備への投資を他自治体よりも早く行う

③ コミュニティ（1件）

- 地域コミュニティの維持（市民活動への支援）

④ 多様性（1件）

- パートナーシップ制度を導入するだけでは不十分。導入した上で、L G B T パートナーが「ここに住みたい」と思える街づくりに力を入れる。（偏見の除外、子どもを欲しいと思うパートナー達に里親制度などを支援、遺産相続について気軽に相談できる事務所やスペースを開設、など

【3 江別市をより良くするための政策提言】

…）今まで日本では生きづらいと思っていた方々の受け皿に、いち早く
なってあげることで、人口増が望める。

(7) そのほか【43件】

① 人口減少対策（14件）

- 近年人口増であるが、今後、北海道全体での過疎化が進行すると思うが、移住等首都圏の在住者を取り込み人口減になる不安要素を払拭すべきだ。
- 子育て事業に力をいれてきた結果、子育てのタイミングで市内に転入する人は増えているが、就職のタイミングで転出させない仕組みも必要なのでは。（就職先が市内にあればベストではあるが、就職先は札幌であっても、ベッドタウンとしてでも住み続けてもらえないか）
- 市外への転出を抑えるため、子育て支援の充実、高齢者に優しい、雇用場所を増やす。
- 人口を維持または、増加させる対策が必要です。
- 人口増への取り組みは、結局のところ市民のニーズを実現する取り組みとなるため、少子化対策にも通じるところがあると思う。日本全体で見ると少子化や人口減少は市町村レベルで解決できるようなものではなく、江別市として10年後を考えるのであれば、市としての”生き残り”を考えて独自性のある取り組みが必要であると思います。江別市に住んでもらう人をあの手この手で増やすしかないのではないのでしょうか。
- 人的資源の最大効率を目指した有効活用は、人口減を控える社会にとって必要不可欠であると考えます。伸ばすべき点は、若い人（労働生産人口）が住みやすい街づくりであると考えます。
- 大学生の定着は難しいため、あまり注力しない方がいいと思う。若い夫婦などに住むことのメリットを高めれば自然と定着率があがると思う。子育て世代の転入については積極的に行うべき。札幌との地価の差は歴然であり、子育て世帯の考えるメリットは大きい。教育や通勤しやすさ、暮らしやすさをアピールするべき。札幌から人に来てもらえるものもあるので、その時に住んでもいいなと思わせられれば。厚別区在住から江別在住は敷居が低いと思うのですが。江別生まれの人が増えるのは長い目で見て強いと思います。
- 定住・移住促進のための補助を手厚くしたり、子育て世帯が移住したいと思える環境づくり
- リタイア世代も都市居住の需要がある。札幌圏を売りにして移住も政策にしてはどうか。
- 札幌に近いことを利用して移住を進めてはどうか
- 若い世代を集めたい。
- 江別市に居住しながら他市へ通勤する者への、交通費助成事業の実施
- 移住者への税制メリットや特典を増やす
- 江別市に住むことのメリットを多くするべきだと思う。

② 住み良さ（2件）

- 大きな施設は札幌市には敵わないので、江別市は子育てがしやすかったり、行き届いた除排雪など日常的な住環境を充実させることを優先した方が良い。そうした結果が企業や商業施設の進出に繋がると思うので、まずは「住みたいまち江別」を目指してはどうでしょうか。
- 住み続けたいと実感できる街づくり

③ 札幌市に近いことを生かす（2件）

- 江別市が単独市町村として良くなって行く（市民に対して）には、隣の芝生は青く見える財政出動による分かりやすいメリットを市民に還元しないとならないと思う。が、そんなことは無理で市町村間のイタチごっこであるため、大都市札幌の隣接都市であるという強みを活かした政策継続が現実的ではないかと考える。江別市職員が江別市に永住することも江別をより良くする一つの策とは思いますが・・・。（文教都市としての発展を目指すなら、立命館以外の大学付属高校や中高一貫校を誘致するか）
- 札幌のベッドタウンとして魅力的なまちとなるような政策を行う（今後想定されるJRの運賃値上げを市の補助で抑えるなど）

④ そのほか（25件）

- 市名の変更
- 市としての魅力を各市が紹介している物をよく見ますが、特産品や名所が好きで越してくる人は少ないのではないのでしょうか。特産品や名所をたくさんの人に知ってもらうことは今後も重要だと思います。地元の活性化にも繋がるので止めてはいけないことです。ただ、市民が本当に必要なものは「より良い生活」ができる街だと思います。今はコロナ禍で家にいることが多く、市内に留まることが多いと思いますが、明けた反動で市外から江別市に遊びに来る人はいないのでは？市内だけの消費にも限界があると思うので、市外から多く人が集まる施設を検討してください。
- 自然や交通の利便性を活用した集客力のある施設の誘致
- 歴史的建造物、食品の認知度を向上し、他都市との特色を際立たせる。
- 立地上、札幌市への依存度が高すぎると思うので、札幌市への依存度を減らしながら札幌市以外の市町村との連携を一層強化していくことも求められると考える。行政や産業の連携だけではなく、地域住民間の連携協力を促進できないものか。
- 河川を利用した水路や淡水資源の活用
- 観光やイベントももちろんだが、子育て支援、高齢者待遇を伸ばしていくべき。
- 地域コミュニティ、学校教育、生涯学習など、多世代が交流し、互いに学びあう場が、いろいろな形で創られようになると、いいのではないかと思います。そういう場を指向する方に選ばれる街となることで、江別市もより良くなっていくのではないかと思います。
- 脱都会需要を取り込む。昨今はテレワークやZ o o mなど業務をオンラインで行う企業が増えているため、雇用側は従来より都心へオフィスを構える必要性が少なくなっている。従業員側は都心に出勤する必要性が

【3 江別市をより良くするための政策提言】

少なくなってきた。むしろ都心にオフィスがあることにより高い賃料、満員電車、渋滞など都心ならではのデメリットも多い。江別市内にオフィスを構えれば、札幌市中心部に比べて安い土地代で使うことができる。また都心へ行く必要があるときもJRでいつでもアクセスすることができる。住む側も都心に比べて安く家を構えられる。以上の都会に比したメリットアピールし、脱都会の需要を取り込む政策を展開する。

- 市民が住みやすい・働きやすい環境となるよう、除排雪を含めた都市インフラや保育環境の充実、企業誘致を進めるべきと考えます。
- 市内在住の大学生数は多いかもしれないが、その大学生たちの目は札幌を向いているので、その目を江別市内に向けてもらうために、何か出来ることはないか。
- 強みを伸ばすのか、弱みをリカバリーするのかを決めた方がよい。
- 江別の特色がわかる政策
- 長所をさらに伸ばすような施策展開
- 江別市の魅力は、これといったものがないので何かを答えられるものを発展させるべき
- 住みたいまち、子育てしやすいまちにするため、他市成功例の研究に十分に力を入れる。小手先のテクニックや短期間で終了するような政策を全否定はしませんが、決して急がず、子どもが大人になっても自分の子どもを育てたいと思えるようなまちを時間をかけてつくる。そういうスタンスのまちにしたいです。
- 人口減少を極力緩やかにしつつ、支出を抑え、市財政のスリム化を図る。
- 代替えになるシステムの構築が必要。(市でも取り組んでいるが、視点を変えたシステムの構築が必要)
- 提言を受け入れるのではなく、実行しているものを受け入れる姿勢が必要かと思えます。意図としては、提言や意見の大半は、空想論や想像、過去の事実などからいただいているものが多いので、現時点で実行している成果や課題を受け入れた方がよいとの意図です。
- 乳幼児から高齢者まで、全員が満足する街というのは理想ですが、難しいかと思えます。一部の人を疎かにするということではなく、どういった人々に住んで欲しいか、理事者、市議会議員、市幹部、一般職員、地域住民に至るまで共有することは大事と思えます。
- 背伸びしないまちづくりを心掛けること。江別市民が望むのは派手な発展ではなく、地味な持続です。
- 公助は大切だが、ありきではない。なんでも行政が全て行うべき、との意識改善。
- 住民1人1人が自立した人になること。
- もっと、市民目線に立った政策を進められる環境が整わない限り、よくなることは無い。
- 政策提言があれば、アンケートではない形で提言していきたいと思えます。